

資料5-1)

原因究明調査の結果、製品に起因する事故ではないと判断する案件(案)

(1)ガス機器、石油機器に関する事故として公表したもので、製品に起因する事故ではないと判断する案件

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
1	A201400714 平成27年1月19日(神奈川県) 平成27年2月2日	ガスコンビネーションレンジ(都市ガス用)	(CO中毒、軽傷2) 当該製品を使用中、一酸化炭素中毒により2名が軽症を負った。	<p>○使用者は当該製品をほとんど使用していないが、事故以前に使用したときも気分が悪くなった。</p> <p>○当該機器の燃焼試験を実施したところ、不完全燃焼していることが確認された。</p> <p>○当該機器の吸気口は、多量のホコリ等で閉塞していた。</p> <p>●当該製品は、吸気口がホコリにより閉塞していたため、不完全燃焼となり、一酸化炭素が室内に滞留したことにより事故に至ったものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「いつもきれいな状態で使う。異常を見つけたときは、最寄りの販売店かガス事業者に修理を依頼する。」旨、注意表記されている。</p>	
2	A201400788 平成27年2月19日(福岡県) 平成27年2月27日	ガス栓(都市ガス用)	(火災) 当該製品に接続したガスこんろを使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品の正面に引き出し式キャビネットが取り付けられていたが、キャビネット内の鍋等が開け閉め時に当該製品のつまみに接触していた。</p> <p>○当該製品のつまみ及び検査孔部にすり傷が認められた。</p> <p>○事故現場では当該製品の検査孔ボルトが脱落しキャビネットの底に落ちていた。</p> <p>○気密試験の結果、当該製品に漏洩は認められず、また、マイコンメーターは作動していなかった。</p> <p>○当該製品の検査孔ボルトを手で緩く締めた状態でもガスは漏れないことを確認した。</p> <p>○直近のガス設備定期保安点検時には、ガス配管の漏洩は認められず、当該製品の検査孔ボルトに緩みがないことが確認されている。</p> <p>●検査孔ボルトが脱落した経緯が不明であるため、事故原因の特定には至らなかったが、検査孔ボルトが脱落した状態でキャビネットの開け閉め時に鍋等がつまみに当たり、つまみが検査孔が開通する位置まで回転して、検査孔からガスが漏洩し、ガスこんろの火が着火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
3	A201400800 平成27年2月21日(山形県) 平成27年3月4日	石油給湯機付ふろがま	(火災) 異音が生じて停電したため確認すると、当該製品を焼損する火災が発生していた。	<p>○当該製品は、屋内設置用の半密閉式(屋内給気)の製品であるが、設置場所(ボイラー室)の換気口が閉められており、その経緯は不明であった。</p> <p>○当該製品の外観は、前扉下部等に内部から熱を受けたことによるものとみられる焼損が認められた。</p> <p>○熱交換器内部のフィンには多量のススが詰まっており、熱交換器本体に亀裂が認められた。</p> <p>○電磁ポンプ表面に灯油が流れた痕跡があり、電磁ポンプ内の上下2か所のリングが硬化していた。</p> <p>●当該製品が設置されていたボイラー室の換気口が閉められていたため、給気不足により不完全燃焼となり熱交換器内のフィンに多量のススが付着し、過熱による膨張・収縮により熱交換器に亀裂が生じ、漏れた排気ガスにより機器内の温度が上昇し、電磁ポンプ内のリングが硬化してシール性が損なわれ、漏れた灯油に引火して出火したものと推定される。</p>	・使用期間:約16年

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
4	A201400830 平成27年2月11日(神奈川県) 平成27年3月12日	石油ストーブ(開放式)	(火災、死亡1名、重傷1名) 当該製品に給油後、当該製品を点火したところ、当該製品を焼損する火災が発生し、1名が死亡、1名が重傷を負った。	<p>○事故発生日の10時頃、使用者が油タンクに給油を行い、ストーブの上でタンクの給油口を下側にしたところ、ネジ式の給油口口金が外れ、灯油がストーブにかかったため、灯油を拭き取った。</p> <p>○19時過ぎに点火棒で点火したら、燃烧筒の上まで炎が上がった。</p> <p>○点火装置の故障の有無は、不明であった。</p> <p>○燃烧筒に異常燃焼の痕跡は認められなかった。</p> <p>○油タンクに焼損がほとんど認められず、油量ゲージ窓の樹脂も溶融していない。</p> <p>○油タンク口金に油漏れなどの異常は認められなかった。</p> <p>●当該製品の燃烧筒に異常燃焼した痕跡は認められず、当該製品に掛けた灯油の拭き取りを行ったが、残っていた灯油に、点火の際に引火し、事故に至ったものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「こぼれた灯油は良く拭き取る。」「給油口口金は確実に締め、給油口口金を下にして油漏れの無いことを確認する。」「油漏れがある場合は、使用をやめる。」旨、記載されている。</p>	
5	A201400835 平成27年3月1日(岩手県) 平成27年3月12日	石油ふろがま	(火災、軽傷1名) 当該製品を使用中、建物を全焼する火災が発生し、1名が軽傷を負った。	<p>○当該製品は斜めに設置された状態であった。</p> <p>○缶体の上側循環口内部は上部だけ過熱した形跡が認められ、上側循環口の中程の高さまで水位があったものと考えられた。</p> <p>○缶体下部にあるのぞき窓の透明な雲母板がなくなっており、燃烧室から排気が漏れる状態であった。</p> <p>○バーナーは焼損していたが、バーナーコントローラー、送風機のモーター巻線、電磁ポンプ、空だき防止装置の組み付け状態に異常は認められなかった。</p> <p>●詳細な事故状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、浴槽に十分な水が張られず斜めの状態で設置されていたため空だき防止装置が作動せず出火したか、あるいは、缶体下部にあるのぞき窓の雲母板がなくなっていたことから燃烧室から排気が漏れて可燃物に引火して火災に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	・使用期間:不明(製造時期から22年~33年と推定)
6	A201400857 平成27年3月7日(東京都) 平成27年3月18日	密閉式(BF式)ガスふろがま(都市ガス用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品の外観は、左面手前側にススが付着し、上面の操作部樹脂の一部及びシャワーヘッドが焼損していた。</p> <p>○ケーシング内面に冠水跡が認められ、バーナー部を取り外した際にふろバーナーから水が流れ落ちた。</p> <p>○給湯バーナー及びふろバーナーに変形や損傷等の異常は認められなかった。</p> <p>○ガス通路にガス漏れは認められなかった。</p> <p>●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品にガス漏れ等の異常はなく、内部に水の浸入が認められたことから、当該製品が冠水したため、バーナーから正常に炎が出なくなり、バーナー手前側に未燃焼ガスが溢れて引火し、火災に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	・使用期間:不明(製造時期から32年6か月と推定)
7	A201500074 平成27年4月15日(広島県) 平成27年4月28日	ガスこんろ(LPガス用)	(火災、軽傷1名) 当該製品を使用中、建物を全焼する火災が発生し、1名が火傷を負った。	<p>○使用者は、当該製品の右側こんろに食材と水を入れた鍋を乗せて強火で加熱中に、別の部屋に移動し眠ってしまった。</p> <p>○当該製品は、全体に著しい焼損が認められた。</p> <p>○右側こんろのつまみ位置は、ほぼ全開の状態であった。</p> <p>●当該製品の右側こんろで食材を加熱中に、その場を離れて眠ってしまったため、鍋の中の食材が過熱し出火に至ったものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「火をつけたまま機器から絶対に離れない」旨、記載されている。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
8	A201500075 平成27年4月23日(広島県) 平成27年4月28日	ガスこんろ(LPガス用)	(火災、軽傷1名) 当該製品を使用中、建物を全焼する火災が発生し、1名が火傷を負った。	<p>○使用者は調理油過熱防止装置のない右こんろを使用し天ぷらを調理中に、火をつけたまま台所を離れ、別の部屋にいたところ、出火に気が付いた。</p> <p>○当該製品は全体が著しく焼損し、樹脂部品は全て焼失していた。</p> <p>○当該製品の汁受け及び製品内部に著しい腐食が認められたが、製品内部からの出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の調理油過熱防止装置が付いていない右こんろで天ぷらを調理し、消火せずにその場を離れたことから、油が過熱して火災に至ったものと推定される。</p> <p>なお、本体には、「使用中その場を離れるときは必ず消火する」、「揚げものは必ず左こんろを使用する」旨、取扱説明書には、「火をつけたままの移動、外出、就寝禁止」、「揚げもの調理をする場合は必ず温度センサー付きバーナーを使用する」旨、表記されている。</p>	
9	A201500097 平成27年4月17日(神奈川県) 平成27年5月11日	石油ストーブ(開放式)	(火災、死亡1名) 建物1棟を全焼、6棟を類焼する火災が発生し、1名が死亡した。現場に当該製品があった。	<p>○石油ストーブのガードと天板部分に繊維系の可燃物が固着していた。</p> <p>○燃焼筒のススの付着は、外筒の後ろ側の一部に認められるが、内炎筒、外炎筒には認められず、異常燃焼した痕跡は認められなかった。</p> <p>○当該製品は焼損が著しいが、特に上半分の焼けが強かった。</p> <p>○機器内側の焼損が著しいが、油タンク下方の樹脂の油受は残っていた。</p> <p>○可燃物が何かは不明であり、また使用状況の詳細も不明であった。</p> <p>●当該製品は、詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、異常燃焼した痕跡は認められなかったことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
10	A201500144 平成27年5月23日(東京都) 平成27年6月2日	密閉式(BF式)ガス給湯付ふろがま(都市ガス用)	(火災) 当該製品を使用中、浴室内で可燃性スプレーを噴射したところ、爆発し、周辺を破損した。	<p>○浴室内で、ふろがまの種火が点いている状態で、液化石油可燃性のLPガス式の殺虫剤を噴霧していたところ爆発した。</p> <p>○ガス漏れはなかった。</p> <p>○外観、内部に変形、冠水痕等の異常はなく、配管、バーナー等機構部の腐食もなかった。</p> <p>○種火の燃焼状態は良好で、点着火に異常はなかった。</p> <p>●当該製品に異常が認められないことから、使用者が当該製品の種火が点いている状態で殺虫剤を噴霧したことにより、噴射剤に使用されている可燃性のLPガスにふろがまの種火が引火して、事故に至ったものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「機器や給排気筒トップの周囲には、引火しやすいもの(ガソリン、ベンジン、灯油など)やスプレーを置いたり、使用したりしない」旨、記載されている。</p>	・使用期間:7年10か月
11	A201500178 平成27年5月5日(千葉県) 平成27年6月16日	ガスポンペ	(火災、軽傷1名) 当該製品をガストーチに接続して使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が軽傷を負った。	<p>○当該製品の的外観に打痕、変形及びガス漏れは認められなかったが、接続部付近のフィルム紙が焼損していた。</p> <p>○当該製品の接続部のねじ山に潰れなどの異常は認められなかった。</p> <p>○事故発生時に使用していたガストーチを当該製品に接続した状態でガストーチの器具栓つまみを開いたところ、器具栓つまみの根元からガスの漏洩が認められた。また、器具栓つまみを閉じた状態でガス漏れは認められなかった。</p> <p>○当該製品に同型のガストーチ(新品)を接続したとごころ、器具栓つまみを開いても根元からのガス漏れは認められなかった。</p> <p>●当該製品に異常が認められず、接続されていたガストーチにガス漏れが認められたことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	A201500179(ガストーチ)と同一事故

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
12	A201500182 平成27年6月7日(山口県) 平成27年6月16日	ガスこんろ(LPガス用)	(火災、軽傷1名) 当該製品の点火操作を行ったところ、1名が頭部に火傷を負う火災が発生した。	<p>○当該製品は、バーナーキャップ炎口の一部分が汚れで塞がり点火しにくい状態であった。</p> <p>○当該製品に顔を近づけて点火操作を行った。</p> <p>●当該製品のバーナーキャップ炎口の一部分が汚れで塞がった状態で点火操作を行ったところ火がつかず、こんろに顔を近づけて点火操作を繰り返したため、不着火により滞留していたガスに引火し、頭部に火傷を負ったものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「点火操作時や使用中はバーナー付近に触れたり、顔を近づけたりしない。」「炎が不ぞろいになった時は、バーナーキャップの穴や溝をブラシや針金等先の細いものなどで掃除する。」旨、記載されている。</p>	
13	A201500198 平成27年6月10日(北海道) 平成27年6月25日	石油ストーブ(半密閉式)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は1か月前からエラーにより自動点火できない状態であったが、使用者は、燃焼筒を外し、火を付けた紙を投げ入れ点火して使用を続けていた。</p> <p>○以前からススが大量に発生しており、使用者自身でススを除去していた。</p> <p>○屋外煙突は、立ち上がり部がない状態であったが、当該製品の設置時からか、途中からかは不明であった。</p> <p>○ガラス炎筒内等には大量のススが付着しており、煙突取付口、熱交換器上部等はススで閉塞状態であった。</p> <p>○燃焼リングは上下逆に取付けられており、点火ヒーターは破損していた。</p> <p>○当該製品は配線、操作部等の樹脂部品が多い操作部側が著しく焼損しており、定油面器は溶融し原形を留めていなかった。</p> <p>●当該製品は、煙突の設置状況等により不完全燃焼が生じやすい状態で、点火不良のエラーも出ていたことを認識していたが、使用者が火を付けた紙を投げ入れて点火し使用を継続したため、煙突取付口、熱交換器等がススで閉塞状態となり、炎が機器内にあふれ配線、定油面器等に着火し出火したものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「煙突がつまったり、ふさがれたままで使用しない。煙突を確実に接続する。異常を感じたときは、使用しない。故障、破損時は使用しない。」旨、記載されている。</p>	
14	A201500214 平成27年6月21日(神奈川県) 平成27年6月30日	ガスこんろ(都市ガス用)	(火災、軽傷1) 当該製品を使用中、使用者の衣服に着火し、火傷を負う火災が発生した。	<p>○当該製品の左こんろ(強火力)にやかんを寄せ、強火にして湯を沸かしていた。</p> <p>○当該製品左奥の棚にあった鍋つかみを手を伸ばして取った後、衣服(Tシャツ)の右すそに火が付いていることに気づいた。</p> <p>○当該製品に焼損は無く、不具合や異常等は認められなかった。</p> <p>●当該製品に不具合や異常は認められないことから、左こんろを強火で使用し、当該製品左奥の棚にあった鍋つかみを取るため手を伸ばした際に、衣服が左こんろの火に近づいて着火し、火災に至ったものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「使用中はバーナー付近に触れない。衣服に炎が移ったりする可能性がある。」旨、記載されている。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
15	A201500220 平成27年6月20日(埼玉県) 平成27年7月3日	カセットこんろ	(火災) 飲食店で当該製品にカセットボンベを接続して点火したところ、当該製品を焼損する火災が発生した。	○当該製品の外観は、樹脂製の器具栓つまみ、容器セットレバーつまみ及びシールが溶融し、底面にススの付着が認められた。 ○当該製品の内部に、焦げや樹脂部品の溶融等の出火の痕跡は認められなかった。 ○器具栓のカセットボンベ接続部は、Oリングに亀裂等の異常は認められなかった。 ○当該製品に事故時接続していたカセットボンベを装着したところ、ガス漏れは認められず、正常に燃焼した。 なお、カセットボンベは当該製品の指定品であった。 ●当該製品の使用状況の詳細が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品にガス漏れは認められず、正常に燃焼することから、製品に起因しない事故と推定される。	A201500230(カセットボンベ)と同一事故
16	A201500230 平成27年6月20日(埼玉県) 平成27年7月7日	カセットボンベ	(火災) 飲食店でカセットこんろに当該製品を装着して点火したところ、カセットこんろを焼損する火災が発生した。	○当該製品の外観は、マウンテンカップ部分にススの付着が認められた。 ○当該製品のバルブを含む各部の寸法は、JIS規格を満足していた。 ○当該製品にガス漏れは認められなかった。 ○当該製品を事故時接続していたカセットこんろに装着したところ、ガス漏れは認められず、正常に点火した。 なお、カセットこんろは当該製品の指定品であった。 ●当該製品の使用状況の詳細が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品にガス漏れ等の異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。	A201500220(カセットこんろ)と同一事故
17	A201500247 平成27年6月27日(兵庫県) 平成27年7月14日	密閉式(BF式)ガス給湯付ふろがま(都市ガス用)	(火災) 異臭がしたため確認すると、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生していた。	○操作パネル取付けビスが欠損していたことにより、追いだきボタンは押し込まれてON状態でロックしていた。 ○当該製品と浴槽の循環口のジョイントパッキングが焼失し、ススの付着が認められた。 ○ふろ熱交換器に多量の酸化スケールが認められた。 ○当該製品にガス漏れはなく、燃焼状態に異常は認められなかった。 ○空だき防止スイッチの動作に異常は認められなかった。 ○製造事業者による点検・修理履歴はなかった。 ●当該製品は操作パネル取り付けビスの欠損により、ふろ追いだきボタンが常時押し込まれ、シャワーのみを使用する際にも空だき状態になっていたこと及び空だきによる熱交換器の酸化スケール詰まりで空だき防止スイッチの作動が遅れたため焼損に至ったと考えられるが、製造事業者による点検・修理履歴がないことからビスの欠損理由については不明であり、製品に起因しない事故と推定される。	・使用期間:不明(製造年月から約21年と推定)
18	A201500285 平成27年7月26日(長崎県) 平成27年7月31日	屋外式(RF式)ガスふろがま(都市ガス用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	○当該製品のフロントカバー下部とフロントカバー内の電装部分及びケース本体右側全体が著しく焼損していた。 ○当該製品の周囲や上面は、外壁、ブロック及び合板で囲われた状態であった。 ○当該製品からガス漏れはなく、燃焼状態は正常であった。 ●当該製品内部に異常が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	A201500334(継ぎ手ホース(都市ガス用))と同一事故

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
19	A201500308 平成27年8月5日(鹿児島県) 平成27年8月11日	ガスこんろ(LPガス用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の天板上及び製品内部にはグリル排気口付近に置かれていた樹脂製可燃物が溶融し、固着していた。 ○当該製品の天板裏側には奥こんろ及びグリル排気口付近にススが付着していた。 ○当該製品内部のガス配管及び器具栓等にガスの漏洩は認められなかった。 ○当該製品の各こんろ口及びグリルの点火・消火動作に異常は認められなかった。 ●当該製品の奥こんろ又はグリルが点火された経緯は不明であるため、事故原因の特定には至らなかったが、グリル又は奥こんろが使用されたことによる熱によりグリル排気口付近にあった樹脂製の可燃物が溶融し、天板及び製品内部に流れ込んだものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
20	A201500310 平成27年8月7日(千葉県) 平成27年8月12日	半密閉式(FE式)ガス瞬間湯沸器(都市ガス用)	(火災) 店舗で当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の外観は、前面、側面及び底面の焼損が強かったが、背面及び上面の焼損は弱かった。 ○内部は全体に焼損していたが、内部配線や基板等の電気部品に溶融痕等の出火の痕跡は認められなかった。 ○ガス通路に、ガス漏れに至る異常は認められなかった。 ○バーナーや熱交換器に、炎漏れや異常燃焼の痕跡は認められなかった。 ○事故現場の焼損が強い場所は、当該製品から離れた場所であった。 ●当該製品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	・使用期間:12年8か月
21	A201500311 平成27年7月26日(佐賀県) 平成27年8月12日	石油ストーブ(開放式)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生時、当該製品は燃料が入った状態で可燃物の近くに置かれており、ガード等に可燃物が付着していた。 ○事故後の当該製品のしん先は7mm上がっており、使用状態であった。 ○製品自体に出火に至るような異常な痕跡は認められなかった。 ●当該製品前方の近接した場所に可燃物が置かれた状態で当該製品が使用されていたため、可燃物が過熱されて出火に至ったものと推定される。 <p>なお、取扱説明書には「カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しない。火災の原因になる。」旨、記載されている。</p>	
22	A201500319 平成27年8月7日(静岡県) 平成27年8月18日	ガスこんろ(LPガス用)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の外観は、前面のグリルの上部が焦げ、グリル取っ手が外れていた。 ○グリル受け皿に多量の炭化物の堆積が認められた。 ○グリル内部の底面や側面に炭化物の付着が認められた。 ○事故時にグリルで焼いていた魚の切り身は、皮や身に焦げ目が付いているが、炭化していなかった。 ●当該製品は、グリル受け皿を清掃せずに使用を継続したため、グリルを使用した際に、グリル受け皿に堆積した油脂等が発火し、火災に至ったものと推定される。 <p>なお、取扱説明書には、「グリルを使用後および連続使用の場合はグリル受け皿に溜まった油を取り除く」旨、記載されている。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
23	A201500334 平成27年7月26日(長崎県) 平成27年8月21日	継ぎ手ホース(都市ガス用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	○当該製品の下面(設置時の地面側)の焼損が著しく、一部分は内部のワイヤー層が露出していたものの、上面の焼損は少なかった。 ○当該製品の下に合板の焼損物が残っており、また、ガスふろがまのフロントカバーの下部が焼損していた。 ●当該製品の焼損状況から、当該製品の下側から強い炎を受けて焼損したものであり、外部からの延焼によるものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	A201500285(屋外式(RF式)ガスふろがま(都市ガス用))と同一事故
24	A201500336 平成27年7月22日(茨城県) 平成27年8月21日	ガス栓(LPガス用)	(火災) 当該製品に接続したガスこんろを使用しようとしたところ、当該製品を焼損する火災が発生した。	○当該製品は2口タイプで、左側ガス栓の樹脂製つまみが「開」の位置で焼損しており、本体左側面には打痕が認められた。 ○当該製品は、左側ガス栓のつまみ部分からガス漏れが認められた。 ○左側ガス栓は、内部の栓組付け部が外力で潰れたように変形していた。 ○右ガス栓は、変形やガス漏れ等の異常は認められなかった。 ●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品は、本体に加わった外力の影響で変形し、内部のシール性が損なわれていたため、漏れたガスにガスこんろ点火時の火花が引火し、火災に至ったものと推定される。	
25	A201500338 平成27年8月12日(島根県) 平成27年8月24日	ガスカートリッジ直結型ガスこんろ	(火災、軽傷1名) 公園で当該製品を使用中、爆発を伴う火災が発生し、1名が軽傷を負った。	○当該製品のバーナー部のごとくは閉じられた状態で、ごとく、断熱板等が著しく変形していた。 ○当該製品に接続されていたガスカートリッジの底部が反転し胴部から外れていたが、器具取付部及び樹脂製バルブに異常は認められなかった。 ○当該製品は、軽量アルミ製の風防板で3方向を囲われ、輻射熱の大きい調理器具(2段式焼網)が使用されていた。 ●当該製品を風防で3方向を囲み、輻射熱の大きい調理器具(2段式焼網)を使ったことにより、当該製品に接続されていたガスカートリッジが過熱され爆発したものと推定される。 なお、取扱説明書には、「輻射熱の多い調理器具は使用しない。石やブロック、板などで囲ったりして使用しない。」旨、記載されている。	
26	A201500348 平成27年8月12日(山口県) 平成27年8月26日	ガストーチ	(火災、軽傷1名) 当該製品に点火したところ、爆発を伴う火災が発生し、周辺を破損し、1名が軽傷を負った。	○当該製品は、ガスボンベに取り付けた状態で、約1年間、屋外の倉庫に保管されていた。 ○当該製品の導管のガス流入口は、昆虫の巣とみられる砂や土状の異物により塞がれていた。 ○当該製品で燃焼実験をしたところ、点火後、全体が炎に包まれ、その後、空気穴から炎が出る状況が認められた。 ●当該製品の導管のガス流入口が昆虫の巣とみられる砂や土状の異物により塞がれていたため、点火の際に、空気穴から流出したガスに引火してガスボンベが過熱されて破裂し、ガスが噴出、引火して爆発に至ったものと推定される。	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
27	A201500355 平成27年8月18日(滋賀県) 平成27年8月28日	ガスこんろ(都市 ガス用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼 損する火災が発生した。	<p>○使用者が子供の連絡で当該製品が燃えていることに気づき、家人が消火器を用いて消火した。</p> <p>○当該製品の天板上に白い樹脂と黒い繊維状の炭化物が認められ、当該製品の右側に置いていた電気炊飯器が一部焼損しガス栓のつまみが溶融していた。</p> <p>○右こんろの点火ボタンは押し込まれてON状態であった。</p> <p>○当該製品のガス経路に漏れは認められず、点火・燃焼及び安全装置に異常は認められなかった。</p> <p>●当該製品の事故時の詳細な状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火に至る異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
28	A201500356 平成27年7月31日(愛知県) 平成27年8月31日	ガスこんろ(都市 ガス用)	(火災) 当該製品を使用中、周 辺を焼損する火災が発 生した。	<p>○鉄製フライパンの手入れのため、少量の油を入れて当該製品で加熱していた。</p> <p>○フライパンの油が発火したため、消火しようと少量の水を入れたところ炎が大きくなり、吊り戸棚及びレンジフードの一部が焼損した。</p> <p>○当該製品に焼損やガス漏れは認められず、調理油過熱防止装置のサーミスター抵抗値にも異常は無く、正常に使用できた。</p> <p>●当該製品は、調理油過熱防止装置に異常は認められないことから、鉄製フライパンの手入れのために少量の油を入れて当該製品で加熱中、油が過熱されて発火し、更に消火のために入れた水の影響で炎が大きくなり、火災に至ったものと推定される。</p>	
29	A201500386 平成27年8月16日(北海道) 平成27年9月11日	石油ふろがま	(火災) 当該製品を使用中、周 辺を焼損する火災が発 生した。	<p>○当該製品の空だき防止装置の配線が断線したため、修理事業者が修理を行った際、誤って異極の配線をまとめて結線した。</p> <p>○空だき防止装置の配線は修理部で短絡していた。</p> <p>○ふろがま外郭が全体的に熱変色していた。</p> <p>○浴槽の排水栓は完全に閉まっていなかった。</p> <p>●当該製品の空だき防止装置の配線の断線修理時に配線を誤って短絡させて結線したため、空だき防止装置が働かない状態となり、浴槽の排水栓を完全に閉めずに使用し水が抜けた際に空だきとなり事故に至ったものと推定される。</p>	・使用期間:1年7か月

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
30	A201500390 平成27年9月8日(福岡県) 平成27年9月11日	屋外式(RF式)ガスふろがま(LPガス用)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は、住宅2階の外側に鋼板や木材を使用して当該製品が置ける空間を作りその中に設置され、20年以上使用されていた。</p> <p>○設置場所に使用された木材の柱や木製台座の焼損が著しかった。</p> <p>○当該製品機構部の外郭表面は焼損していたが、機構部内部は焼損していなかった。</p> <p>○事故発生時、強風が吹いていた。</p> <p>○当該製品の熱交換器下部の循環パイプ側フィンにススが付着していたが、過熱した痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の周囲にあった木製の台座等の焼損が著しく、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品内部に異常は認められないことから、設置されていた木製の台座等が使用による熱の影響で炭化が進んでいた可能性があり、強風のためバーナーの炎が外にあふれて木製の台座等に着火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
31	A201500394 平成27年8月31日(北海道) 平成27年9月16日	ガスこんろ(都市ガス用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○使用者が、調理油過熱防止装置が付いていない右こんろを使用し、天ぷら調理を行った後、外出した。</p> <p>○使用者が外出した約20分後に火災が発生した。</p> <p>○当該製品の焼損は著しいものの、ガス漏れの痕跡はなく、異常は認められなかった。</p> <p>●当該製品の調理油過熱防止装置が付いていない右こんろで天ぷら調理を行い、火を消し忘れて外出したため、調理油が過熱して火災に至ったものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には「揚げもの調理は、必ず調理油過熱防止機能付きのこんろを使用する。使用後は消火を確認する。」旨、記載されている。</p>	
32	A201500401 平成27年9月9日(奈良県) 平成27年9月18日	石油こんろ	(火災) 倉庫で当該製品を使用中、当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。	<p>○使用者が倉庫兼事務所の1階倉庫で、当該製品の上に焼き芋用の鍋を置いて当該製品を点火し、約1~2時間後、使用者の家人が室内及び当該製品から大量の黒煙と炎が出ていることに気づきホースで水をかけて消火した。</p> <p>○当該製品の外装の塗膜が熱変色しており、内部はススが全面に付着していた。</p> <p>○当該製品の操作部の枠、しん調節つまみ、電池ケース、取っ手及び点火つまみの樹脂部品が焼失していた。</p> <p>○燃焼筒の拡炎板、外炎筒及び内炎筒にススの付着はなく異常燃焼の痕跡は認められなかった。</p> <p>○しんは火力を弱めにした状態(±0mmの位置)で周囲に固着し、対震自動消火装置は作動した状態であった。</p> <p>○置台中央にススの付着と塗膜の変色があり、吹き返しの痕跡が認められた。</p> <p>○燃料の送油経路には漏れは認められなかった。</p> <p>●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火に至る異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
33	A201500425 平成27年9月21日(大阪府) 平成27年10月7日	ゴム管(都市ガス用)	(火災) 当該製品をガスこんろに接続して使用していたところ、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○使用者は湯沸器が点火しなかったため、2口ガス栓のうち一方のガスこんろ接続側を誤って開放し再度湯沸器を点火したところ、当該製品及び周辺を焼損した。</p> <p>○当該製品は、ガス栓から約125mmの箇所がねじられながら約70度曲がった状態にあった。</p> <p>○当該製品は曲げ部を中心に焼損しており、焼損により円周の約2/3に亀裂が生じ、内面層まで焦げた状態であった。</p> <p>○当該製品の熱影響を受けていない部分の引張強さ、伸び及び硬さは同等品と同程度の物性であり、劣化はほとんど認められなかった。</p> <p>●当該製品の使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の焼損していない外被及び中間ゴムに劣化が認められず、ねじれて曲がった状態で設置されていた部分から漏洩したガスに引火したと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
34	A201500426 平成27年9月13日(埼玉県) 平成27年10月7日	ガスこんろ(LPGガス用)	(火災、重傷1名) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が重傷を負った。	<p>○使用者は左こんろを使用していた。</p> <p>○製品内部に発火の原因となるような異常は認められなかった。</p> <p>○当該製品の右前面にある右こんろ及びグリルの操作ボタンが著しく焼損していた。</p> <p>○左側面は右側面に比較してきれいで、背面のガスホースは焼損していなかった。</p> <p>○台所の床面が焼損しており、当該製品の手前下部から上部に向けて著しい焼損痕が認められた。</p> <p>●当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
35	A201500427 平成27年9月29日(群馬県) 平成27年10月7日	ガスこんろ(都市ガス用)	(火災) 当該製品を使用中、周辺を汚損する火災が発生した。	<p>○当該製品の調理油過熱防止装置が付いていない左こんろで揚げ物をした後、台所に戻ると、天ぷら鍋から出火しており、当該製品の火が消えていなかった。</p> <p>○調理油過熱防止装置が付いている右こんろは詰まりで点火しにくかったことから、使用者は普段から左こんろのみを使用しており、左こんろも事故の約1年前から点火ボタンの調子が悪く、うまく点火しなかったり、火が消えないことがあった。</p> <p>○当該製品は、外側及び内側は大量の汚れが付着し、左バーナーの点滅器はボタン軸の中まで煮こぼれや油が入り込んでおり、動作に引っかかりが生じていた。</p> <p>○右バーナーのバーナーキャップは焦げた食品かすや油で詰まっていた。</p> <p>●当該製品を操作しても消火しない等の不具合を認識しながら使用を続け、また、事故発生時は調理油過熱防止装置が付いていない左こんろを使用し、消火の確認をせずにその場を離れたことから、油が過熱して火災に至ったものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「火をつけたまま機器から絶対に離れず、使用後は消火を確かめる。」、「揚げもの調理をする場合は必ず温度センサー付きバーナーを使用する。」、「日常の点検、お手入れは必ず行い、故障または破損したと思われるものは使用しない。」旨、記載されている。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
36	A201500432 平成27年9月12日(大阪府) 平成27年10月9日	ガスこんろ(都市 ガス用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼 損する火災が発生した。	<p>○使用者が当該製品の近くでガス臭いと感じ、マッチを着けて近づいたところ火がついた。 ○当該製品の点火つまみ及び天板を覆っていたビニルシートを焼損した。 ○使用者は入居以来約9年間当該製品を使用していなかった。 ○当該製品は1口のビルトインこんろで、煮こぼれを生じた際、内部に煮汁等が溜まる構造であった。 ○当該製品内部のアルミ合金ダイカスト製の導管継手が腐食してガス漏れを生じていた。 ○取扱説明書には、「煮こぼれ等を生じた際にはバーナーキャップなどの手入れを行う」旨、表記されているものの、煮こぼれ等を多量に生じた際に点検を促す旨の表示はなかった。 ●当該製品は、使用者より前に入居していた住人が調理中に煮こぼれ等を起こして当該製品内部に煮汁が溜まり、その状態で長期間放置されたことによりガス導管継手が腐食して破断しガス漏れに至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定されるが、使用者が入居する際に管理者(大家等)が十分に点検せずに受け渡したことが事故発生に影響したものと推定される。</p>	
37	A201500493 平成27年11月6日(福岡県) 平成27年11月12日	ガスこんろ(都市 ガス用)	(火災) 当該製品を使用中、周 辺を焼損する火災が発 生した。	<p>○当該製品は調理油過熱防止装置が設置されていないこんろで油調理をし、その後放置していた。 ○当該製品に焼損はなく、製品の不具合は認められなかった。 ●使用者が、調理油過熱防止装置が設置されていないこんろを使用して調理したまま放置したため、油が過熱し、出火したものと推定される。 なお、取扱説明書には「火を付けたままの移動、外出、就寝禁止。料理中のものが焦げたり燃えたりして火災の原因になる。特に天ぷら、揚げ物をしているときは注意する」旨、記載されている。</p>	
38	A201500497 平成27年11月1日(熊本県) 平成27年11月13日	ガスこんろ(LPガ ス用)	(火災) 建物を全焼する火災が 発生し、現場に当該製品 があった。	<p>○全焼火災の現場にガスこんろがあった。 ○消防の調査により、出火元はガスこんろでないことが確認された。 ●当該製品から出火したものではないことが確認できたことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
39	A201500514 平成27年11月5日(北海道) 平成27年11月20日	石油ストーブ(半 密閉式)	(火災) 当該製品を焼損する火 災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○屋外に通じる横引き煙突内に鳥の巣が詰まっていた。 ○煙突の屋外部分の底部に蓋が取り付けられていなかったが、その経緯は不明であった。 ○当該製品の煙突取付口外側が焼損していた。 ○燃焼ポット内の灯油流入口、ヒートエレメント、燃焼リング及びガラス炎筒内側にススが付着していた。 ○送風ファン及び周辺の内部配線等に焼損が認められた。 ●当該製品に接続された屋外の煙突底部に蓋がなく、そこから鳥が侵入し屋内横引き煙突内に巣を作ったことにより煙突が閉塞して排気不良となったため、異常燃焼が発生して、煙突及び機器内が過熱し出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
40	A201500522 平成27年11月19日(北海道) 平成27年11月24日	ガスこんろ(都市 ガス用)	(火災) 飲食店で当該製品を使 用中、周辺を焼損する火 災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品で天ぷら油を加熱中にその場を離れたところ、鍋から炎が上がった。 ○現場の焼損状況より、鍋が置かれた右こんろ側から炎が立ち上がり、排気ダクト及び壁面コンセントに燃え広がった痕跡が認められた。 ○当該製品に焼損等の異常は認められなかった。 ○当該製品に調理油過熱防止装置は付いていなかった。 ●当該製品で天ぷら油を加熱中にその場を離れたため、天ぷら油が過熱して発火し、火災に至ったものと推定される。 なお、取扱説明書には、「火を付けたまま移動、外出、就寝しない。調理中のものが燃えたりして火災の原因になる。特に、天ぷら、揚げものをしているときには注意をする。」旨、記載されている。 	
41	A201500523 平成27年11月16日(長野県) 平成27年11月24日	ガス炊飯器(LP ガス用)	(火災) 当該製品を点火したとこ ろ、周辺を焼損する火災 が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の外観に焼損や破損等の出火の痕跡は認められなかった。 ○ガス通路の気密性に異常は認められなかった。 ○ガス栓及び迅速継手の一部とカーテンが焼損していた。 ●当該製品に焼損は無く、ガス漏れも認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
42	A201500532 平成27年11月17日(北海道) 平成27年11月30日	石油ストーブ(開 放式)	(火災、死亡1名) 当該製品及び周辺を焼 損する火災が発生し1名 が死亡した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は正面側に著しい焼損が認められた。 ○本体タンクや給油タンクに灯油が残存し、給油タンクや本体に油漏れの痕跡は認められなかった。 ○燃焼筒に異常燃焼の痕跡は認められなかった。 ●当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
43	A201500559 平成27年12月2日(鹿児島県) 平成27年12月9日	ガスこんろ(LPガス用)	(火災、重傷1名) 当該製品を使用中、当該製品から炎が上がり、1名が重傷を負う火災が発生した。	○当該製品には異常は認められず、現在も継続使用している。 ○使用者は頭部及び首等部分を火傷していた。 ●事故当時の状況は不明であるため、事故原因の特定には至らなかったが、製品に異常は認められず、製品に起因しない事故と推定される。	

資料5-(2)

原因究明調査の結果、製品に起因する事故ではないと判断する案件(案)

(2)ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故として公表したもので、製品に起因する事故ではないと判断する案件

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
1	A20150024 平成27年1月25日(大阪府) 平成27年4月7日	マルチタップ	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	○当該製品は、レンジ台の電源プラグを接続していた部分を中心に焼損していたが、樹脂の溶融は認められずほぼ原形を留めていた。 ○刃受金具の先端が溶融していたが、当該製品から出火した痕跡は認められなかった。 ○レンジ台の電源プラグは、トラッキングにより栓刃間の樹脂が著しく溶融し、栓刃にも溶融が認められた。 ●当該製品の刃受金具先端に溶融が認められたものの、当該製品に接続されていたレンジ台の電源プラグ栓刃間の樹脂が著しく炭化・焼損しており、栓刃間のトラッキングによる出火の影響を受けたものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	
2	A201500274 平成27年6月21日(茨城県) 平成27年7月24日	照明器具	(火災) 当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。	○当該製品が全体的に焼損していた。 ○事故発生時、当該製品に通電はされていなかった。 ○当該製品の電気部品、内部配線から出火した痕跡は認められなかった。 ●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火した痕跡が認められないことから、外部から延焼したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	
3	A201500364 平成27年8月23日(大阪府) 平成27年9月1日	自転車	(重傷1名) 当該製品で走行中、前輪がロックして転倒、負傷した。	○使用者(40歳代、男性)が当該製品に乗り路面を走行中、転倒し、負傷した。 ○当該製品のスポークにわずかな変形が認められたが、その他に事故発生に繋がる異常は認められなかった。 ○当該製品で実走行検査を実施したが、前輪ロック状態は再現しなかった。 ●事故原因の特定には至らなかったものの、当該製品に事故発生に至る異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。	
4	A201500371 平成27年8月18日(愛知県) 平成27年9月4日	エアコン(室外機)	(火災) 社員寮で当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	○当該製品は正面から見て右側上部のみが焼損しており、当該製品の右側に積まれていた廃タイヤ4本も焼損していた。 ○当該製品右側の端子台及び渡り配線に出火の痕跡は認められず、内部配線にも溶融痕等の出火の痕跡は認められなかった。 ○内部の圧縮機、ファンモーター、運転用コンデンサー等に出火の痕跡は認められず、通電したところ正常に動作した。 ●当該製品に出火の痕跡は認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	・使用期間:不明(製造時期から18年と推定)

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
5	A201500498 平成27年11月3日(岐阜県) 平成27年11月13日	電気ストーブ (カーボンヒーター)	(火災、重傷1名) 当該製品及び周辺を焼損する 火災が発生し、1名が重傷を 負った。	<p>○当該製品は本体下部から上方へ焼損していた。</p> <p>○当該製品の電源スイッチは450W・首振りの状態であったが、周囲に可燃物はなかった。</p> <p>○転倒時オフスイッチは外郭樹脂が著しく焼損していたが、内部のマイクロスイッチ接点に熔融痕等の出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○電源プラグ、電源コード、内部配線、基板及び首振りモーターは焼損していたが、断線や熔融痕等の出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○電源スイッチ及びサーモスタットは焼損しておらず、出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の電気部品に出火の痕跡は認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

原因究明調査の結果、製品に起因する事故ではないと判断する案件(案)

(3) ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因であるか否かが特定できない事故として公表したもので、製品に起因する事故ではないと判断する案件

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
1	A201400543 平成26年10月31日(栃木県) 平成26年12月1日	電気ストーブ(カーボンヒーター)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は、電源スイッチ(出力切替を含む)の位置から、当該製品は運転状態ではなかった。 ○ヒーター部はスイッチ側樹脂が焼損していたが、電源スイッチ、タイマー等に溶融痕等の出火の痕跡は認められなかった。 ○ヒーター管に破損はなく、通電したところ正常に作動し、端子部に過熱の痕跡は認められなかった。 ○電源コード及び内部配線に溶融痕等の出火の痕跡は認められなかった。 ●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
2	A201400573 平成26年12月4日(宮城県) 平成26年12月15日	脚立(はしご兼用、アルミニウム合金製)	(重傷1名) 倉庫で当該製品を脚立として使用中、転倒し、足を負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者は、トレーラーの荷台から当該製品を使って降りようとした際、当該製品から転落した。 ○事故発生日時の状況を再現すると、当該製品の天板上面(当該製品の天板高さは112cm)より、トレーラーの荷台の方が高く、差が15cm程度であった。 ○当該製品は、回転金具の直下から二本の支柱が破損していた。 ○破断面の大部分は延性破壊であり、一部分に繰り返し荷重がかかった痕跡(ストライエーション)が認められた。 ○当該製品の支柱の寸法、厚さ及び硬度に異常は認められなかった。 ●当該製品の詳細な使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の支柱の強度に異常が認められなかったことから、製品に起因しない事故と推定される。 なお、同等品の支柱の強度は、SG基準に適合していた。 	
3	A201400766 平成27年2月7日(栃木県) 平成27年2月19日	太陽電池モジュール(太陽光発電システム用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生の約半年前に、当該製品の出力ケーブルの劣化した保護管を交換するため、出力ケーブルを切断し、リングスリーブにより再接続工事が行われていた。 ○太陽電池モジュール下に設置された出力ケーブルの再接続部が保護管を含め焼損し、太陽電池モジュールの一部にも焼損が認められた。 ○出力ケーブルの再接続部の素線に溶融痕が認められた。 ○太陽電池モジュール本体には、出火痕跡は認められなかった。 ●当該製品の出力ケーブルの保護管を交換をする際に、ケーブルを切断し、再接続時のリングスリーブの圧着不良により、圧着部が異常発熱し、出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
4	A201400796 平成27年1月15日(兵庫県) 平成27年3月3日	電気あんか	(重傷1名) 当該製品を使用中、太 股に低温火傷を負っ た。	<p>○使用者は、当該製品を就寝時に足に挟んで使用していた。</p> <p>○当該製品の表布に焦げたり傷みはなく、防水袋にも溶融は認められなかった。</p> <p>○サーモスタットが不織布より剥がれ、クッション材より露出していたが、当該製品に通電した結果、サーモスタットは正常に動作し、表布の最高部位でピーク時、約60℃であった。</p> <p>○不織布全体に著しいしわが発生していた。</p> <p>●当該製品は正常に動作しており、使用者が両膝に挟んで就寝し長時間太股に触れさせたことから低温やけどに至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、本体表示や取扱説明書には、「低温やけど防止のため、身体から離して使う、腰の下や足に挟んで使用しない、折り曲げて使用しない」旨、記載されている。</p>	
5	A201500015 平成27年3月5日(神奈川県) 平成27年4月7日	照明器具(パー ティー用)	(火災) 店舗で展示されていた 当該製品を含む複数の 照明器具等を焼損する 火災が発生した。	<p>○当該製品の周囲には複数の照明器具が設置されており、それぞれ焼損が認められた。</p> <p>○当該製品の樹脂製の笠及び台座に焼損・溶融が認められたが、内部部品に異常は認められなかった。</p> <p>○当該製品の電源コードに断線は認められたが、電源プラグを含めて出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	A20150016、 A20150017、 A20150018と同一案件
6	A201500026 平成27年3月26日(広島県) 平成27年4月7日	介護ベッド用手すり	(死亡1名) 使用者(80歳代)が当該 製品と介護ベッドのフッ トボード(足側のついた て)の間に胴体部分が 挟まった状態で発見さ れ、病院に搬送後、死 亡が確認された。	<p>○当該製品に異常や欠陥は認められなかった。</p> <p>○当該製品は、全長が短いタイプの介護ベッド用の製品であったが、事故時使用されていたベッドは全長が標準タイプのものであった。</p> <p>○当該製品を全長が標準タイプのベッドで使用した場合、サイドレールとフットボードとの隙間が約12cmとなり、JIS規格を満たさなかった。</p> <p>○当該製品は指定されたベッドとの正常な組み合わせで使用した場合、JIS規格の隙間の寸法を満たしていた。</p> <p>○当該製品はレンタルにより使用されていたが、使用者家族の希望により当該介護ベッドに当該製品を取り付けて使用されており、レンタル事業者がこのような使用方法により危険な隙間が生じ、安全策を講じる必要があることを使用者の家族に伝えており、使用者の家族は承諾の上、使用していた。</p> <p>●当該製品に異常や欠陥は認められず、使用者が適合サイズとは異なるベッドに当該製品を使用したことにより、当該製品とフットボードとの隙間が広くなり、使用者が胴体部を挟み込んだものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「ベッドのサイズに合わせて使用する。」旨、記載されている。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
7	A201500027 平成27年3月29日(広島県) 平成27年4月7日	電気洗濯機	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は事故の2～3か月前から電源スイッチを入れても電源が入らないことがあったため、1か月前から電源スイッチのカバーを外して使用していた。</p> <p>○電源スイッチのカバーは容易に取り外せるものではなかった。</p> <p>○事故発生時、当該製品は使用中ではなかった。</p> <p>○当該製品は、前面パネル右側を中心に全体的に焼損していた。</p> <p>○前面パネル右上部の電源基板に実装されていた電源スイッチは、著しく焼損して基板から脱落し、固定接点及び可動接点は、いずれの表面にも著しい溶融が認められた。</p> <p>○モーター、内部配線等のその他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の電源スイッチが故障したため電源スイッチカバーを取り外して使用していたことにより、電源スイッチ内部に水、洗剤等が浸入して、トラッキング現象が発生して出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「火災、感電等の原因になるため、修理技術者以外は分解や修理をしない。」旨、記載されている。</p>	・使用期間:約14年
8	A201500036 平成27年3月29日(京都府) 平成27年4月14日	コンセント	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は20年ほど使用されていなかった</p> <p>○4日前より、当該製品に延長コードを接続し、延長コードにテレビを接続して使用していた。</p> <p>○当該製品の表面樹脂は溶融していたが、延長コードプラグの異極間の絶縁は保たれていた。</p> <p>○刃受金具や導電板に変形や溶融等の異常は認められなかった。</p> <p>○屋内配線の挿入量は十分であり、異常は認められなかった。</p> <p>○プラグ保持力は、JIS基準値(10N～60N)を満たしていた。</p> <p>○刃受金具表面にホコリが確認された</p> <p>●当該製品の刃受金具と延長コードのプラグ栓刃との間で、ホコリ等の異物により接触不良が生じ、異常発熱状態となったため、コンセント表面の樹脂が一部溶融したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
9	A201500037 平成27年2月11日(福岡県) 平成27年4月14日	延長コード	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は寝室のベッド脇で使用されており、タップ部(3口)の焼損が著しく、タップの樹脂部の大半は焼損していた。</p> <p>○当該製品のタップ部の最も電源側の差込口にセラミックヒーターが接続されていたが、セラミックヒーターの差込口及び電源プラグにはトラッキング現象等の異常は認められなかった。</p> <p>○当該製品のタップ部の残りの2口は何も接続されていなかったが、刃受金具の一部が焼失し、溶融痕が認められた。</p> <p>○当該製品のタップ内部は、それぞれの刃受金具が仕切りにより隔離されて、絶縁性が保たれていた。</p> <p>●当該製品の詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、何も接続されていない刃受金具間で溶融痕が認められたことから、当該製品の刃受金具間でホコリが堆積してトラッキング現象が生じ、出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
10	A201500042 平成27年3月25日(岡山県) 平成27年4月16日	加湿器(スチーム式)	(重傷2名) 当該製品を使用中、幼児(2歳)が当該製品の電源コードに引っ掛かり本体が倒れ、幼児を含む2名にお湯が掛かり、火傷を負った。	<p>○当該製品は、蓋フック部及びヒンジ部に、変形、破損等の異常はなく、開閉動作にも異常は認められなかった。</p> <p>○本体のマグネットプラグ接続部に変形、破損等の異常は認められなかった。</p> <p>○電源コード引っ張りによる当該製品の転倒を確認したところ、マグネットプラグを外す方向及び外す方向に対して左右に引っ張った場合、ゆっくり引っ張ると当該製品はテーブル面を滑って移動はするが転倒することはなく、強めに引くとマグネットが外れ転倒することはなかった。</p> <p>○蓋を確実に閉めた状態で当該製品を前後左右に転倒させたところ、蓋が開くことはなかった。</p> <p>●当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電源コードが引っ張られた場合でもマグネットプラグが外れるなどにより本体が転倒することはなく、確実に蓋を閉めた状態では転倒させても蓋が開くことはなかったことから、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、当該製品のマグネットプラグを外すために要する力は、電気用品安全法に基づく技術基準に適合していた。</p>	
11	A201500044 平成27年4月5日(広島県) 平成27年4月16日	電子レンジ	(火災) 当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品のローラーがなくテーブルの回り方がおかしかったことを使用者は認識していた。</p> <p>○当該製品の外郭は左側面の塗装が剥げ、変色していたが、前面、後面、右側面に異常は認められなかった。</p> <p>○庫内下面に取り付けられているプーリーが焼損し、庫内下面に焦げ跡及び穴空きが認められた。</p> <p>○テーブル裏面にあるローラー4か所のうち3か所のローラーがなかった。</p> <p>○内部の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品は、使用者が庫内テーブルが回転しない故障状態のまま継続使用していたことから、テーブル裏面のローラー付近に電波が集中して、ローラーが破損しテーブルが傾き、スパークにより庫内下面が溶融して穴が開き、下面側の樹脂製プーリーに着火し出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には「故障したときには、販売店に修理を依頼する。」旨、記載されている。</p>	
12	A201500048 平成27年3月30日(愛媛県) 平成27年4月17日	介護ベッド	(死亡1名) 介護者(90歳代)が昇降機能のある当該製品のベッド下フレームの隙間に挟まった状態で発見され、死亡が確認された。	<p>○当該製品の手元スイッチは、介護者の胸の下で発見された。</p> <p>○手元スイッチに変形や破損はなく、ベッド床等の昇降機構に異常は認められなかった。</p> <p>○昇降用モーター等の電気部品に異常は認められなかった。</p> <p>○手元スイッチのフックに不具合はなく、ヘッドボードまたはさく等に掛けても容易に落下することはなかった。</p> <p>○本体フレームには、「生命に重大な危機を及ぼす恐れがあるため、ベッドの下には絶対に入らない。」旨、警告表示されていた。</p> <p>●事故時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「ベッドの中やフレームの間に潜り込まない。」旨、記載されている。また、当該製品の手元スイッチの操作力はJIS規格に適合していた。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
13	A201500061 平成27年1月5日(岩手県) 平成27年4月22日	ろうそく(芳香用)	(火災) 当該製品をキャンドルホルダーに載せて使用中、キャンドルホルダーが破損し、周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○キャンドルホルダーに載せた当該製品を事故発生の約19時間前に点火し、消火するのを忘れて外出した。</p> <p>○当該製品は使用者が外出する前までは異常なく使用されていた。</p> <p>○同等品の燃焼状態に異常はなく、燃え尽きるまで燃焼させても異常燃焼及びキャンドルホルダーに破損等は認められなかった。</p> <p>●詳細な事故時の状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、同等品の燃焼状態に異常はなく、燃え尽きるまで燃焼させても異常燃焼及びキャンドルホルダーの破損等は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、当該製品の注意表示には「炎は2～3時間ごとに消す。炎をつけたまま、その場を離れない。」旨、記載されている。</p>	・A201500062(キャンドルホルダー)と同一事故
14	A201500066 平成27年4月16日(東京都) 平成27年4月27日	電子レンジ	(火災) 濡らしたタオルを当該製品で加熱後、当該タオルを布団の中に入れていたところ、布団を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品の動作に異常は認められなかった。</p> <p>○事故後も当該製品は継続使用されている。</p> <p>●当該製品の事故状況の詳細が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
15	A201500067 平成27年3月5日(山口県) 平成27年4月27日	フェンス(住宅用)	(重傷1名) 当該製品に寄り掛かったところ、当該製品が倒れ、右足を負傷した。	<p>○当該製品の破損脱落部はフェンスの1面であり、使用者はフェンスとともに敷地から道路に転落して負傷した。</p> <p>○脱落したフェンスの左側のコーナー継手部品及び右側の直線継手部品(いずれも樹脂製)が事故によってすべて破断していた。</p> <p>○フェンス本体を支える左側(コーナー部)の支柱が設置されておらず、コーナー継手部品に対して片側にしか支柱がない状況であった。</p> <p>○右側に設置されていた支柱は、埋め込み部コンクリート上面で破断し、道路側は圧縮、敷地側は引っ張りの様相を呈していた。</p> <p>●当該製品左側のコーナー継手部品の片側にしか支柱が設置されていなかったため、使用者が当該製品に手を掛けた際、コーナー継手部品に過大な荷重が加わって破断し、コーナー継手側の結合が外れた後もバランスを崩した使用者の体重が当該製品に掛かり続けて、右側の直線継手側の支柱の埋め込み部を支点として回転し支柱の埋め込み部が破断し、使用者とともに落下して右足を負傷したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、カタログ等には、「支柱はコーナー部では必ず2本使用する」旨、記載されている。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
16	A201500069 平成27年3月24日(鳥取県) 平成27年4月28日	窓	(重傷1名) 当該製品の付近で幼児(1歳)が遊んでいたところ、右手指を負傷した。	<p>○事故の目撃者がおらず、当該製品(引き違い窓)のどの部位でどのような状態で怪我をしたのか詳細が不明であった。</p> <p>○当該製品のクレセント錠は、使用者が手を伸ばせば届く位置であった。</p> <p>○当該製品の窓部材及びクレセント錠に、変形、バリ等はなく、動作は正常であった。</p> <p>●当該製品の詳細な使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に変形、バリ等はなく、動作も正常であったことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
17	A201500071 平成27年4月22日(兵庫県) 平成27年4月28日	電子レンジ	(火災) 当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。	<p>○使用者は食品を温め取り出した後、タイマーが作動している状態で扉を閉めたことにより、庫内が空の状態が運転が継続した。</p> <p>○庫内に食品による汚れの付着は認められなかったが、キャビネットカバー裏側の排気口付近に、油の付着による汚れが認められた。</p> <p>○導波管カバーは、機械室側よりも庫内側の焼損が著しかった。</p> <p>○電気部品やターンテーブルの動作等に出火に至る異常は認められなかった。</p> <p>○庫内が空の状態でも550Wで運転させた結果、運転開始直後より導波管カバー付近でスパークが発生したが、同等品の導波管カバーを取付けた状態では、庫内が空の状態であってもスパークは発生しなかった。</p> <p>●当該製品は、庫内が空でタイマーが作動している状態で扉を閉めたことにより、導波管カバーに付着していた食品カスが炭化し、スパークが発生したことで出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書にはお願いとして、「庫内が空のまま動作させない、庫内が異常に高温になり、故障、やけどの原因になる」旨、記載されている。</p>	
18	A201500072 平成27年4月5日(京都府) 平成27年4月28日	電気洗濯機	(火災) 事務所で当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品を使って洗濯後、出火を発見するまでに8時間以上を経過していた。</p> <p>○当該製品内部の電気部品には、出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○当該製品の背面に位置する電源コードは、本体から500mm(全長:1940mm)の位置で断線し、断線箇所には溶融痕が認められた。断線箇所は通常の使用において負荷のかからない位置であった。</p> <p>○当該製品の使用期間は約15年である。</p> <p>●事故発生時の詳細が不明のため、事故原因の特定には至らなかったが、電源コードに外的なストレスが加わったことで被覆が損傷して、スパークし、出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、当該製品は電気用品取締法の技術基準に適合している。</p>	・使用期間:15年
19	A201500094 平成27年3月11日(群馬県) 平成27年5月8日	捕虫器(屋内用)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は全体的に焼損し、樹脂部は原形を留めていなかった。</p> <p>○ファンモーターの巻線、内部配線、安定器、端子等に断線、溶融痕等の出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○電源プラグ、コード及びコンセントに溶融痕等の出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
20	A201500111 平成27年5月2日(北海道) 平成27年5月15日	電気脱臭装置	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○使用者が外出中に火災が発生し、焼損の著しい場所にはペット用に使用していた当該製品や他社製パネルヒーターがあった。</p> <p>○当該製品は、外郭樹脂のほとんどが焼失し、金属部品や電気部品等は残存していた。</p> <p>○オゾン発生器、ファンモーター、内部配線等の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○電源プラグは焼損しておらず、電源コードは断線していたが溶融痕等の出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	・A201500149(パネルヒーター(ペット用))と同一事故
21	A201500122 平成27年5月1日(和歌山県) 平成27年5月19日	IH調理器	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は、グリル庫内を空焼きすることで庫内の油を焼き切り、汚れを除去する機能を有している。</p> <p>○使用者が当該製品のグリルで魚を焼いた後、空焼きをしたところ発火した。</p> <p>○使用者は空焼き前に、グリルの受け皿を洗っていなかった。</p> <p>○当該製品のグリル庫内内部に焼損した痕跡があり、グリル下ヒーターに油等が燃えた跡がある以外、異常は認められなかった。</p> <p>●使用者が当該製品のグリルを使って調理した後、グリルの受け皿を洗わずに空焼きをしたため、出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「空焼きの際には受け皿、グリル扉を洗ってから行う」旨、記載されている。</p>	
22	A201500123 平成27年5月4日(高知県) 平成27年5月19日	接続箱(太陽光発電システム用)	(火災) 当該製品を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品内部の端子板に著しい焼損が認められた。</p> <p>○端子版の圧着端子に溶融痕が認められ、接続端子の座金、導電板、ナットにも溶融痕が認められた。</p> <p>○溶融した圧着端子が導電板と座金間で広がり、隙間が認められた。</p> <p>○その他の電気部品に溶融痕等の出火痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品を施工した際に、端子板の配線接続部のねじに締め付け不足があったため、接触不良により異常発熱し、焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
23	A201500125 平成27年4月4日(徳島県) 平成27年5月20日	ベビーカー	(重傷1名) 当該製品を開く際に、当該製品で幼児(1歳)が指を挟み重傷を負った。	<p>○事故発生時、使用者は挟まった幼児の指を無理に引き抜いた。</p> <p>○幼児が指を挟んだ箇所は、当該製品(正面から見て)右側の後輪フレームとその受け部の間の折り畳み機構部であり、当該製品が開かれるのに伴い間隔が狭くなる箇所であった。</p> <p>○当該製品の可動部分及びフレームに破損や変形は認められず、折り畳み動作に異常は認められなかった。</p> <p>○指挟み部の近傍には、「指挟みに注意する」旨のシールが貼付されていた。</p> <p>●当該製品の折り畳み機構に異常は認められなかったことから、幼児が折りたたみ機構部に手を掛けていることに気が付かず当該製品を開いたため、幼児の指が後輪フレームとその受け部の間に挟まり、挟まった指を無理に引き抜いたために負傷したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、本体及び取扱説明書には、「開閉操作は、子供の手指などを挟まないよう、子供が接触した状態では行わない。」旨、表記されている。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
24	A201500129 平成27年5月11日(埼玉県) 平成27年5月21日	プラズマテレビ	(火災) 病院で当該製品を使用 中、当該製品の電源 コード部を焼損する火 災が発生した。	○当該製品は、電源コードの本体接続側コネクタ及び本体背面のACインレットに焼損が認められた。 ○当該コネクタは先端部分のみが焼損し、ACインレットの栓刃に放電痕跡が認められた。 ●当該製品本体のACインレットに接続される電源コードのコネクタに差し込み不足があったため、ACイン レットの栓刃とコネクタの刃受金具間で接触不良により異常発熱し、コネクタ接続部が焼損したものと 考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	
25	A201500135 平成27年5月14日(宮城県) 平成27年5月25日	エアゾール缶(殺虫 剤)	(火災) 当該製品を噴射したと ころ、周辺を焼損する火 災が発生した。	○使用者は、シロアリを駆除するため、屋外から浴室壁内に当該製品を噴射したが、噴射した付近に給湯 器の排気口があった。 ○事故時、使用者の家族が浴槽に水を張るため給湯器を使用していた。 ○当該製品は噴射剤にLPGが使用されている。 ●当該製品を壁内の給湯器の排気口付近に噴射したため、噴射された可燃性ガスに引火し、出火したも のと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	
26	A201500140 平成27年5月17日(奈良県) 平成27年5月28日	電気洗濯乾燥機	(火災) 当該製品及び周辺を焼 損する火災が発生し た。	○当該製品はドラム内で焼損が著しく、ふた上部が燃えていた。 ○製品内部で表示基板のケースやその周辺の内部配線が焼損していたものの、表示基板や制御基板及 びその他の電気部品に出火に至る異常は認められなかった。 ○衣類の内部から出火した痕跡は認められず、衣類から火源となる異物や油分の混入は認められなかつ た。 ●当該製品の内部部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。	
27	A201500143 平成27年5月13日(香川県) 平成27年6月1日	電気ポンプ(井戸用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼 損する火災が発生し た。	○当該製品は、圧力タンクの一部、圧力スイッチ及び端子台付近に著しい焼損が認められた。 ○圧力スイッチの接点に、荒れや溶融等の出火痕跡は認められなかった。 ○端子台の接続部(ねじ締め部)に異常は認められなかった。 ○その他の電気部品(モーター、電源端子台、セラミックヒーター等)に出火痕跡は認められなかった。 ●当該製品の出火時の詳細な状況が不明であるため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の 内部部品から出火した痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。	
28	A201500151 平成27年5月25日(千葉県) 平成27年6月4日	ノートパソコン	(火災) 当該製品に他社製の バッテリーを接続して使 用中、当該製品及び当 該バッテリーを焼損する 火災が発生した。	○当該製品のバッテリー接続端子に焦げが認められたが、接続端子の樹脂に変形、焼損した痕跡は認め られなかった。 ○当該製品に接続していた他社製の互換バッテリーの不具合により、バッテリー内部で異常発熱した痕跡 が認められた。 ○当該製品内部に異常発熱した痕跡は認められず、正常に通電及び動作していた。 ●当該製品の内部部品に異常は認められず、当該製品に接続していた他社製互換バッテリー内部からの 延焼により焼損に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	・A201500162 バッテ リー(ノートパソコン 用)と同一案件

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
29	A201500155 平成27年5月15日(神奈川県) 平成27年6月5日	携帯電話機(スマートフォン)	(火災) 当該製品をかばんの中に入れていたところ、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生していた。	<ul style="list-style-type: none"> ○正面側の液晶ディスプレイ部が焼損していた。 ○内部の基板類に焼損は認められず、電気部品に異常は認められなかった。 ○内蔵電池パックに焼損や膨れ等の異常は認められなかった。 ○当該製品を入れたかばんの脇にライターが置かれていた。 ○防犯カメラの映像で使用者がその場を離れてから12分後に出火していたことが確認された。 ●当該製品の内部部品から出火した痕跡が認められないことから、当該製品の入れたかばんの脇に置かれたライターの火が消えていなかったため、かばんに着火して、焼損に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	A20150215と同一案件
30	A201500156 平成27年4月7日(群馬県) 平成27年6月5日	水槽用ろ過器	(火災) 店舗で当該製品を延長コードに接続して使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の電源プラグは、水槽の下部で延長コードに接続されて使用されていた。 ○当該製品の本体には焼損はなく、電源プラグと延長コードのタップ部との接続部に著しい焼損が認められた。 ○当該製品の電源プラグが著しく焼損していたため、本体、電源コード等の表面に付着していた白色物質を分析した結果、水道水に含まれるミネラル分が認められた。 ●当該製品の電源プラグが水槽下部で延長コードに接続されて長年使用されていたことから、水槽から電源コードを伝わって滴下した水分により電源プラグ部でトラッキング現象が発生して出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 なお、取扱説明書には、「電源コンセントは、水槽より高い位置にあるようにし、電源コードを伝わって差し込みプラグに水がかからないようにする。」旨、記載されている。 	
31	A201500157 平成27年4月27日(新潟県) 平成27年6月5日	電気ストーブ(ハロゲンヒーター)	(火災) 建物が全焼する火災が発生し、現場に当該製品があった。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は焼損が著しく、台座は焼け残っているが、スタンドが溶融してヒーター部(ヒーター、ガード、反射板)が前のめりに倒れ、反射板はほぼ焼失していた。 ○事故発生時、当該製品のスイッチは『切』状態であったが、電源プラグはコンセントに差されていた。 ○ガードの裏側に位置する内部配線に溶融痕が認められたが、当該部位は応力がかかる位置ではなく、二次痕と推察された。 ○その他の部品に発火の痕跡は認められなかった。 ●当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
32	A201500161 平成27年5月28日(新潟県) 平成27年6月9日	IH調理器	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○前面のロースター扉及び操作部に焼損が認められた。 ○ロースター受け皿及び焼き網には、炭化した食品のカスが認められた。 ○ロースターヒーターに異常は認められなかった。 ○ロースターの排煙筒内と底面の温度センサーに異常は認められなかった。 ○左右の加熱コイル、ラジエントヒーター及び内部の電気回路に異常は認められなかった。 ●当該製品の電気部品に異常は認められず、ロースター内の食品カスが炭化していることから、ロースター庫内の手入れ不足により食品カスがたまった状態で使用したために、センサーが温度異常を検知する前に庫内の食品カスに着火し、発煙・発火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 なお、取扱説明書には「(ロースター調理に関し)使用後は必ずお手入れする。調理くずや油分が残ったまま調理すると発煙・発火の原因となる。」旨、記載されている。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
33	A201500165 平成27年5月2日(埼玉県) 平成27年6月11日	自転車	(重傷1名) 当該製品で走行中、転倒し、左腕を負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は車輪呼び径24インチ、6段変速機構付の子供車で、使用者は当該製品を事故の7日前に輸入事業者の直営店で購入していた。 ○当該製品に乗車していた使用者が、平坦な舗装路を走っていたところ、当該製品から「ガガガ」という異音が出てペダルが空回りするような感覚がしたあと、バランスを崩して転倒したとの申し出内容であった。 ○事故発生時、使用者は変速操作をしておらず、事故後、当該製品のチェーンは外れていなかった。 ○当該製品のチェーンに緩みや破損は認められず、変速ギヤにも破損はなかった。 ○ディレーラを車体に固定する部品に曲がりや変形は認められなかった。 ○後輪の変速ギヤとディレーラのセッティングに異常は認められず、変速動作も正常だった。 ○当該製品の走行状態を確認したところ、異常音やガタツキは認められず、急激な変速操作を行ってもチェーンが外れたり、ペダルが空回りしたりすることはなかった。 ●事故発生時の異音やペダルが空回りしたときの詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の車体や変速機構に異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
34	A201500167 平成27年5月24日(長崎県) 平成27年6月11日	除湿機	(火災) 当該製品を使用中、建物を全焼する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は、焼損が著しいが、電源コード及び内部配線には溶融痕などの異常は認められなかった。 ○コンプレッサー、ファンモーター及び制御基板等の部品に発火した痕跡は認められなかった。 ●当該製品の電気部品に出火の痕跡は認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
35	A201500172 平成27年5月23日(秋田県) 平成27年6月12日	エアゾール缶(消臭剤)	(火災) 遊技施設で火災が発生し、現場に当該製品があった。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は底が抜けて天井に刺さった状態であった。 ○当該製品は噴射剤にLPGが使用されている。 ●当該製品は二次的に爆発したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
36	A201500181 平成27年4月27日(東京都) 平成27年6月16日	エアコン(室外機)	(重傷1名) 当該製品の撤去作業中、当該製品が破裂し、手指を負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生時、エアコン撤去のための冷媒回収(ポンプダウン)作業を行っていた。 ○当該製品の圧縮機金属製外郭は大きく裂けており、内部に黒いススが認められた。 ○作業者は、吸入側バルブに回収状況を確認するための圧力計を取り付けていなかった。 ○作業者は、吐出側バルブは閉にし圧縮機を運転し、停止後吸入側フレアナットを緩めて冷媒が吹き出る音の状況で冷媒回収状況を確認する操作を繰り返し行った。 ●当該製品は、エアコン撤去業者が冷媒回収作業の手順を誤ったため、圧縮機が運転状態のときに空気吸引をして、圧縮機内部が異常高温・高圧状態となり、破裂したことで手指を負傷したものと推定される。 なお、据付工事説明書には、「ポンプダウン(冷媒回収)時には吸入側に圧力計を取付ける。」旨、記載されている。また(一社)日本冷凍空調工業会では、「ポンプダウン作業では圧力計を取り付ける。」旨、ホームページに掲載し、注意喚起を実施している。 	・使用期間:不明(製造期間から4~6年と推定)

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
37	A201500200 平成27年6月14日(岡山県) 平成27年6月26日	パワーコンディショナ (太陽光発電システム用)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は、屋内設置専用の製品であったが、屋外に設置されていた。</p> <p>○当該製品内部の基板に著しい焼損が認められた。</p> <p>○当該製品のソーラーパネルからの直流入力が接続される端子間が著しく焼損し、パターン(銅箔)に溶断が認められた。</p> <p>○内部の電装部品の取付ねじや板金部品の垂鉛メッキ部に腐食が認められた。</p> <p>○外郭パネルには、「屋外に設置しない」旨、表示されていた。</p> <p>●当該製品(屋内設置専用)を屋外に設置したため、電装部に雨水が浸入し、基板上でトラッキング現象が発生し、出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
38	A201500202 平成27年6月2日(福岡県) 平成27年6月26日	電気こんろ	(火災) 当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。	<p>○使用者は360g程度の油で揚げ物の調理中にその場を離れており、火力は強火だった。</p> <p>○当該製品の内部配線、電気部品等に焼損は認められなかった。</p> <p>○当該製品は正常に動作する状態だった。</p> <p>●当該製品の電気部品に異常は認められなかったことから、使用者が揚げ物を調理していた際にその場を離れたため、調理油が過熱し、発火したのと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「揚げ物調理中はそばを離れない」「加熱を続けると発火する」「揚げ物は中火で調理する」「揚げ物調理の油量は500g以上」の旨記載されている。</p>	
39	A201500207 平成27年6月10日(東京都) 平成27年6月29日	エアコン(室外機)	(火災、軽傷3名) 当該製品の撤去作業中、当該製品が破裂し、3名が軽傷を負う火災が発生した。	<p>○エアコン撤去のため、冷媒回収(ポンプダウン)作業を行っており、コンプレッサーは運転中であった。</p> <p>○コンプレッサーに破裂が認められた。</p> <p>○2方弁(吐出側バルブ)は全閉、3方弁(吸入側バルブ)は全開状態であることが認められた。</p> <p>○エアコン撤去業者は特定できており、5~6年の実績があった。</p> <p>●当該製品は、エアコン撤去業者が冷媒回収の作業手順を誤ったため、空気吸引・圧縮運転をしたコンプレッサーが異常高温高圧状態となり、破裂に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、(一社)日本冷凍空調工業会では、「空気を吸い込み、そのままコンプレッサーの運転を続けることで、コンプレッサー内部の温度が上昇し、コンプレッサーが破裂する事故に繋がる可能性がある。」旨、HP上で注意喚起をしている。</p>	・使用期間:不明(製造期間から7年~8年と推定)
40	A201500212 平成27年6月4日(長野県) 平成27年6月30日	自転車	(重傷1名) 当該製品で走行中、前輪がロックして転倒、負傷した。	<p>○前ホークは後方に変形していた。また、前ホークの左右の足は両方ともに変形し、左足は外側へ膨らむような方向にも変形が生じていた。</p> <p>○前輪左側のスポーク1本が車輪の回転方向とは逆側に大きく変形しており、そのスポークは首部から折損していた。</p> <p>○前ホーク足の内側は、左足には汚れの付着はなく、擦れ痕があった。なお、右足には走行時に付着したと思われる泥汚れやホコリが付着していた。</p> <p>○同等品の前ホークは、JIS D9301で定められたエネルギー吸収性試験及び疲労試験を、スポークは、JIS D9420で定める引張試験を満足していた。</p> <p>●事故発生時の詳細な状況は不明であり、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の前ホークの痕跡から、前輪に異物が挟み込まれて前輪がロックして転倒し、負傷したのと考えられ、異物は特定できなかったが、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
41	A201500213 平成27年6月17日(長野県) 平成27年6月30日	電話機	(火災) 飲食店で当該製品及び 周辺を焼損する火災が 発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品外郭の焼損は著しく、底面以外は原形を留めていなかった。 ○メイン基板は残存しており、基板上に出火の痕跡は認められなかった。 ○ACアダプター、電話回線コードに出火の痕跡は認められなかった。 ○当該製品の右隣に設置されていたコーヒーマーカーの焼損は著しく、電源基板等多くの部品が炭化または焼失していた。 ○当該製品の手前に設置されていた消毒液用ディスペンサー(業務用)の焼損は著しく、残存部品に出火の痕跡は認められなかったが、基板等一部の部品が焼失していた。 ●当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	A20150222と同一案件
42	A201500221 平成27年6月4日(宮崎県) 平成27年7月3日	温水洗浄便座	(火災) 当該製品を焼損し、周 辺を破損する火災が 発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は電気部品を内蔵していない部分の焼損が著しかった。 ○ヒーター線、内部配線及び電源コード等に熔融痕等の異常は認められなかった。 ○事故現場では当該製品よりも後方の焼損が著しかった。 ●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
43	A201500224 平成27年6月7日(埼玉県) 平成27年7月6日	ACアダプター(パソコン用)	(火災) パソコンに装着した当 該製品を延長コードに 接続していたところ、当 該製品及び周辺を焼損 する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は本体部の焼損が著しく、外郭樹脂は原形をとどめておらず、基板からDCコードが脱落していた。 ○当該製品本体側及びパソコン側のDCコード接続部に出火した痕跡は認められなかった。 ○当該製品本体内部の基板、ACコードに出火した痕跡は認められなかった。 ○当該製品の電流ヒューズは溶断していなかった。 ●当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
44	A201500235 平成27年5月17日(神奈川県) 平成27年7月10日	椅子	(死亡1名) 当該製品に着座中、転 倒し、数日後、病院で死 亡した。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者は、4脚で座面のみが回転する当該製品に腰掛けていたところ転倒し、後方70～80cm、フローリングからの高さ約80cmの壁に取り付けられた手すりのエンドキャップに後頭部を打ち付けたとの証言内容であるが、転倒している状況を見た者はいなかった。 ○当該製品に破損、がたつき等は認められなかった。 ○JIS S 1204:1998「家具-いす-直立形のいす及びスツールの安定性の試験方法」に定める前方安定性、後方安定性及びびじり付いすの側方安定性の転倒力は、同規格付属書に示す最小転倒力の提案値を満たしていた。 ○10人の被験者(男性、20～70歳代、身長160～180cm)が当該製品の座面に座り、後方、側方、後側方に体重を掛けた時の安定性を確認したところ、安定して座ることができた。 ●事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の安定性に異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
45	A201500238 平成27年5月24日(熊本県) 平成27年7月10日	自転車	(重傷1名) 当該製品で下り坂を走行中、ブレーキを掛けたが停車中の車に衝突し、転倒、手首を負傷した。	<p>○当該製品の前ブレーキワイヤーのアウタ(チューブ状のもの)の先端がアウタ受け(アウタ先端を包む受け部)の上端に引っ掛かった状態で走行していた痕跡が認められた。</p> <p>○前ブレーキワイヤーのアウタとアウタ受けとの調整は、出荷後に販売者が実施している。</p> <p>○当該製品の前ブレーキワイヤーには、アウタの先端がアウタ受けの上端に引っ掛かった状態でブレーキが利く位置に締め付け痕が認められ、通常締め付け位置に締め付け痕は認められなかった。</p> <p>○同等品を用いてブレーキワイヤーの締め付けと締め付け痕の残り具合について調査した結果、一度締め付けた箇所には必ず締め付け痕が認められた。</p> <p>●当該製品は、前ブレーキワイヤーのアウタ先端がアウタ受けの上端に引っ掛かった状態でブレーキが調整されて販売されたため、事故発生時にアウタ先端がアウタ受け内に入り込み、ブレーキの遊びが大きくなったことで、前ブレーキレバーを握ってもブレーキが掛からない状態になり、衝突、転倒し、手首を負傷したものと考えられる。</p>	
46	A201500241 平成27年6月7日(岡山県) 平成27年7月13日	電気ケトル	(重傷1名) 当該製品を使用中、当該製品の蓋に触れたところ、蓋が外れ、左手に火傷を負った。	<p>○事故発生時、当該製品の湯は沸騰し、蓋が浮いた状態になっていた。</p> <p>○当該製品は、蓋部に変形等はなく、開閉動作も正常であり、閉じる際にも「カチッ」と音がした。</p> <p>○当該製品の蓋が浮いた状態で再現実験を行ったところ、蒸気通路に正常に蒸気を通さないため、センサーが沸騰を感知せずに加熱を継続し、蓋の温度は漏れた蒸気で高温になり、触れない状態になった。</p> <p>○当該製品の蓋を正常に閉めて湯沸かしを行ったところ、沸騰しても蓋に異常温度上昇はなく、沸騰後はスイッチがオフになった。</p> <p>○蓋の上面には、「蓋の両側の開閉ツマミが「カチッ」と音がするまで押し込む」旨、表示されていた。</p> <p>●当該製品の蓋を確実に閉めずにスイッチを入れたため、沸騰しても通電が継続し、使用者が高温になった蓋に触れた際に火傷を負ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「ふたが完全に閉まっていることを確認する。そのまま使用すると湯が漏れて、火傷の恐れがある。湯沸かしが完了しても電源が切れなくなり、故障の原因になる。」旨、記載されている。</p>	
47	A201500242 平成27年6月6日(宮城県) 平成27年7月13日	電気炊飯器	(火災) 当該製品のタイマーをセットしておいたところ、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生していた。	<p>○当該製品は、底面を中心に焼損が認められた。</p> <p>○ヒーター、基板、電源コード等の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
48	A201500262 平成27年7月7日(福岡県) 平成27年7月21日	ACアダプター(携帯電話機用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品のマイクロUSB端子(出力側)には何も接続されていない状態だった。</p> <p>○マイクロUSB端子のコネクターシェル(金属製)が傾いた状態で変形しており、コネクターシェル内部の電源用端子ピン1本は傾いたコネクターシェルと接触し、当該ピンに溶融痕が認められた。また、溶融痕の形状がコネクターシェル内面に認められた溶融穴の形状と一致しており、マイクロUSB端子に発熱の痕跡が認められた。</p> <p>○コネクターシェル内部の他の電源用端子ピン1本は変形し、傾いたコネクターシェルに接触していたが、溶融痕は認められなかった。</p> <p>●当該製品は、出力コネクター部に外力が加えられたため、コネクターピンとコネクターシェル(金属製)が変形して接触状態となり、スパークが生じ、コネクターの樹脂が焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書に「携帯電話に接続する際、うまく接続ができないときは、無理に行わない。端子の向きを確かめてから、接続を行う。」「変形したプラグは使用しない。ショートによる火災や故障の原因となる。」旨が記載されている。</p>	
49	A201500269 平成27年6月8日(兵庫県) 平成27年7月22日	ライター(使い切り型)	(火災、死亡1名) 当該製品を使用後、衣服のポケットに入れていたところ、衣服が燃えて火傷を負い、病院で死亡した。	<p>○当該製品にススの付着と炎口付近に僅かな変形が認められたが、ほぼ原形を留めていた。</p> <p>○当該製品内部のガス流路に異常はなかった。</p> <p>○当該製品からガスは漏れていなかった。</p> <p>○当該製品の点火ボタンの隙間に砂や繊維が異物として付着していた。</p> <p>●詳細な使用状況が不明なため、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に異常は認められないことから、異物の付着によって点火ボタンの滑りが悪くなり、点火ボタンが消火位置まで戻らなかったため、残火が生じて着衣に燃え移ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
50	A201500270 平成27年7月11日(埼玉県) 平成27年7月23日	太陽電池モジュール(太陽光発電システム用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は本体の一部及びケーブルが焼損していたが、出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○当該製品の接続箱に出火した痕跡は認められなかった。</p> <p>○当該製品の裏側に位置する他社製の太陽光発電システム用延長ケーブルが焼損、断線し、溶融痕が認められた。</p> <p>●当該製品の内部部品に出火の痕跡が認められないことから、他社製の太陽光発電システム用延長ケーブルからの出火により延焼したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
51	A201500273 平成27年7月11日(愛知県) 平成27年7月23日	踏み台(アルミニウム合金製)	(重傷1名) 倉庫で当該製品を使用 中、転倒し、負傷した。	<p>○当該製品は、4本の支柱のうち1本が、最下段踏さんの取付部直下で破断していた。</p> <p>○支柱破断部は、通常使用で負荷が加わる外側方向ではなく、横から内側方向に力が加わって破断したことを示す変形が認められた。</p> <p>○破断した支柱の断面外形寸法、肉厚及び硬さ(引張り強度代用値)は、社内基準値を満足していた。</p> <p>●当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、破断した支柱の強度に異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、当該製品は、SG CP5A 0015:2013「住宅用金属製脚立のSG基準」の強度試験を満足していた。</p>	
52	A201500275 平成27年7月3日(山口県) 平成27年7月24日	照明器具	(火災) 当該製品を焼損し、周 辺を汚損する火災が発 生した。	<p>○当該製品は、屋内配線(単線)と電源ユニットへの入力配線(より線)との圧着スリーブ接続部付近に著しい焼損が認められた。</p> <p>○当該圧着スリーブは、工具によりかしまれていたが、圧着が極所的であり、より線の素線の一部に圧着されていない部分があった。</p> <p>○電源ユニットに出火痕跡は認められず正常に動作した。</p> <p>●当該製品の内部配線と屋内配線との接続部に圧着不良があったため、接触不良により発熱、発火し、周囲の絶縁被覆等に延焼したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
53	A201500287 平成27年5月10日(鹿児島県) 平成27年7月31日	ウォーターサーバー	(重傷1名) 乳児が当該製品の温水 レバーを操作したと ころ、お湯が出て火傷を 負った。	<p>○当該製品の温水コックは、ボタンを押したままの状態でもコップ等を温水レバーに押しつけて初めて出湯するチャイルドロック機構を有していた。</p> <p>○当該製品を確認したところ、水漏れや破損のほか、チャイルドロック機構に異常は認められなかった。</p> <p>○当該製品には、チャイルドロック機構のほか、温水コックを完全に覆いボタンが押せなくなる樹脂製の操作部カバーが標準装備されていたが、当該カバーは使用されていなかった。</p> <p>●当該製品に異常は認められず、標準装備の操作部カバーを使用しておらず、乳児から目を離した際に、乳児が当該製品の温水コックの操作部に触って出湯し火傷を負ったものと推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には「子どもの火傷防止のために必要に応じて操作部カバーを使用する」旨の記載があり、また、本体表示には、「熱湯注意」「温水コックを押さえると熱湯が出るので火傷に注意する」旨、警告表記されている。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
54	A201500289 平成27年6月29日(神奈川県) 平成27年8月3日	脚立(はしご兼用、アルミニウム合金製)	(重傷1名) 店舗で当該製品を脚立として使用中、転倒し、胸部を負傷した。	<p>○使用者が屋内で滑り止め端具にウエスが巻かれた当該製品をビニルシートで養生した床に立て、天板から3段目に足を掛けて天井の点検口に運搬用袋を上げる作業をしていたところ、転倒した。</p> <p>○当該製品の片側昇降面の左右の支柱が下から2段目の踏ざん取付部を軸に右方向に折れ曲がっていた。</p> <p>○左右支柱の破断面に汚れの付着・変色等はなく、破断面端部や周辺部にネッキングが生じていた。</p> <p>○最下段の踏ざんは変形しており、補強金具のリベットが抜けていた。</p> <p>○支柱の板厚等の寸法及び硬さ測定(引張強度換算)の結果、板厚は1.70mmで社内基準値(1.70±0.15)を満たしており、引張強度換算値は約310N/mm²で社内基準値(245N/mm²以上)を満たしていた。</p> <p>○後継機種による再現試験の結果、左右の支柱が下から2段目の踏ざん取付部を軸に右方向に折れ曲がり、踏ざんの変形、補強金具のリベットの外れ、破断面周辺にネッキングが生じている等、当該製品と同様の破損状況であった。</p> <p>●当該製品の強度等に異常は認められないことから、使用者がウエスが巻かれた当該製品をビニルシートで養生した床に立て、天井点検口に運搬用袋を上げる作業中にバランスを崩して転倒し、胸部を負傷したものと考えられ、当該製品の変形等は使用者と接触したときに生じたものである。</p> <p>なお、本体表示及び取扱説明書には、「身体の安定が得られないような荷物を持つての昇り降りはしない。加工や改造をしない。滑りやすい場所に設置しない。」旨、警告表記されている。また、当該製品はJISマーク、SGマーク及び軽金属製品協会マーク表示品である。</p>	
55	A201500293 平成27年7月23日(愛知県) 平成27年8月4日	エアコン	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は焼損が著しく、本体の樹脂部品は焼失し、本体の右側下部に取り付けられているファンモーターコネクター部の接続端子に溶融痕が認められた。</p> <p>○ファンモーターコネクター部の付着物から、エアコン洗浄剤と思われる成分が検出された。</p> <p>○制御基板、表示基板、端子台、ルーバーモーター、電源プラグ等に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○当該住宅は賃貸住宅で、現在の使用者はエアコン洗浄していなかったが、使用者が入居する以前の使用状況は確認できなかった。</p> <p>○当該製品は前面グリルで電装部を遮蔽しているため、洗浄剤がファンモーター部分に容易に浸入しない構造であった。</p> <p>●当該製品は、ファンモーターコネクター部にエアコン洗浄剤が付着したため、トラッキング現象が生じて出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「消費者自身で内部の洗浄はしない。発煙・発火の原因となる。」旨、記載されている。また、日本冷凍空調工業会では、ホームページ上において、「エアコン内部の洗浄は高い専門知識が必要です。もし誤った洗浄剤の選定・使用方法で内部洗浄を行うと、エアコン内部に残った洗浄剤で、樹脂部品の破損・電気部品の絶縁不良などが発生し、最悪の場合は、発煙・発火につながる恐れがある。」旨、注意喚起を行っている。</p>	・使用期間:8年

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
56	A201500299 平成27年7月27日(愛知県) 平成27年8月7日	電気炊飯器	(火災) 当該製品のタイマーを セットしておいたところ、 当該製品及び周辺を焼 損する火災が発生して いた。	<p>○当該製品の外観は、背面側の焼損が著しく、前面パネルは焼け残っていた。</p> <p>○電源コードは、本体出口付近で断線し、片極の芯線に溶融痕が認められたが、通常使用時にストレスがかからない箇所であった。</p> <p>また、電源プラグのコードプロテクター部で、芯線の一部に断線が認められた。</p> <p>○本体内部の基板、ヒーター等の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○当該製品は、タイマーをセットしており、炊飯開始直後に出火したと考えられた。</p> <p>●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、電源コードに引っ張り等のストレスが加わって半断線状態となり、炊飯開始後に半断線部が異常発熱して出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、当該製品は電気用品安全法の技術基準に適合している。</p>	
57	A201500302 平成27年6月14日(北海道) 平成27年8月10日	自転車	(重傷1名) 当該製品で走行中、当 該製品のチェーンが外 れ、転倒し、肩を負傷し た。	<p>○使用者が舗装されたサイクリングロードを当該製品で走行中、勢いよく加速したところ、チェーンが外れ、前のめりに転倒し、肩を負傷した。</p> <p>○当該製品は、変速機がない単速の製品であった。</p> <p>○前ギヤにチェーンが外れた時に生じたと思われる傷跡が確認されたが、前後ギヤに変形はなく、ギヤの回転状態に異常は認められなかった。</p> <p>○チェーンに伸びや大きなたるみはなく、外れたチェーンを取り付けたところ、チェーン及び車輪の回転に異常は認められなかった。</p> <p>●当該製品の詳細な使用状況が不明のため、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品にチェーン外れを発生させる異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
58	A201500305 平成27年7月24日(大阪府) 平成27年8月10日	携帯電話機(スマートフォン)	(火災、軽傷1名) 当該製品に他社製AC アダプターを接続して充 電中、当該製品及び周 辺を焼損する火災が発 生し、1名が火傷を負っ た。	<p>○当該製品は外観上、外部接続端子部周辺に熱変形が認められたが、それ以外に異常は認められず、本体側コネクタとACアダプター側のUSBケーブルプラグの接続部での端子の変形やずれの痕跡は認められなかった。</p> <p>○外部接続端子部を含むアンテナユニットを、同等品と交換してACアダプターに接続したところ、正常に充電できた。</p> <p>○外部接続端子部の付着物からNa(ナトリウム)、Cl(塩素)が検出された。</p> <p>●当該製品は外部接続端子周辺に液体が付着し、内部に浸入したため、端子間に漏洩電流が生じて異常発熱し、焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書及び本体に、「充電端子や外部接続端子に液体(水や飲料水、ペットの尿、汗など)を浸入させない。火災、やけど、けが、感電の原因となる」旨、記載されている。</p>	・A201500306(ACアダプター(携帯電話機用))と同一付議案件

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
59	A201500306 平成27年7月24日(大阪府) 平成27年8月10日	ACアダプター(携帯 電話機用)	(火災、軽傷1名) 当該製品を他社製携帯 電話機に接続して充電 中、当該製品及び周辺 を焼損する火災が発生 し、1名が火傷を負っ た。	○当該製品は外観上、マイクロUSBケーブルのマイクロUSB端子部に焼損が認められたが、それ以外に異常は認められなかった。また、マイクロUSB端子部のピン及びはんだに異常は認められず、芯線部分に破損や切断も認められなかった。 ○当該製品の性能試験を実施したところ、すべて正常な動作が確認された。 ○マイクロUSB端子部の内部が焼損し、芯線接続部分及び周辺の樹脂部分が溶融しており、端子ケースの付着物から、Na(ナトリウム)、Cl(塩素)が検出された。 ●当該製品はマイクロUSBケーブルのマイクロUSB端子部周辺に液体が付着し、内部に浸入したため、端子間に漏洩電流が生じて異常発熱し、焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 なお、取扱説明書には、「水や飲料水、ペットの尿などで濡らさない。火災、やけど、けが、感電の原因となる」旨、記載されている。	・A201500305(携帯 電話(スマートフォ ン))と同一付議案件
60	A201500312 平成26年11月28日(福島県) 平成27年8月13日	凍結防止用ヒーター (水道用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼 損する火災が発生し た。	○当該製品は、温度制御用のサーモスタット部とヒーター部に分かれ、サーモスタット部のコンセントにヒーター部のプラグを接続して使用するものであるが、当該製品はヒーター部が直接電源コンセントに接続されて使用されていた。 ○当該製品は折り返して取り付けられており、重ね巻きや接触状態の箇所があった。 ●当該製品は、温度制御に必要なサーモスタット部が使用されずにヒーター部を直接コンセントに差し込んで使用されており、また、ヒーターが折り返して取り付けられ、重ね巻きや接触状態の箇所があったため、異常発熱し出火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 なお、取扱説明書には、「サーモスタット部は必ず配管に密着させて取り付ける。ヒーターの折り返し、重ね巻き、接触等しない。」旨、記載されている。	・A201400562(凍結 防止用ヒーター(水道 用))と同一事故
61	A201500313 平成27年7月26日(神奈川県) 平成27年8月13日	エアコン(室外機)	(火災) 当該製品及び周辺を焼 損する火災が発生し た。	○当該製品外郭の樹脂部品は溶融・焼失が認められた。 ○熱交換用アルミフィン及び機械室内の吸音材は残存し、金属製天板も内側から出火した痕跡は認められなかった。 ○インバーター基板、室内機との渡り配線等に出火の痕跡は認められなかった。 ○リアクター、四方弁コイル、電子膨張弁コイル、ファンモーター等のその他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ●当該製品の内部部品に出火した痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	
62	A201500315 平成27年8月3日(熊本県) 平成27年8月13日	IH調理器	(火災) 当該製品を使用中、当 該製品を焼損する火災 が発生した。	○当該製品のグリル庫内には、油脂や調理物等が焼損したと考えられる炭化物が付着しており、下ヒーター固定板には多量の炭化物が付着していた。 ○使用者は、グリルで魚焼き自動調理した後に、焼き加減が不足していたため追加加熱を行っていたが、焼き加減を確認しながら手動で調理せず、魚焼き自動調理により再加熱を行っていた。 ○魚焼き自動調理による再加熱時は、調理時間が16~20分に設定されている。 ●当該製品のグリルで魚焼き自動調理後に追加加熱を行った際に、再度、自動調理により加熱を行ったため調理時間が長くなり、グリル庫内に残った油脂等が過熱・発火したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 なお、取扱説明書には、「焼き色が好みより薄い場合は、一度グリル電源キーを押して、再度、手動で追加加熱する」、「グリル調理後はグリル受け皿・焼網の調理物や油分を取り除くこと。調理物が発火して火災の原因になる」、「グリルヒーターに付着した汚れは固くしぼったぬれふきんで、こまめに手入れする」旨、記載されている。	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
63	A201500316 平成27年7月31日(埼玉県) 平成27年8月14日	エアコン	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○電源コードが断線し、断線部先端に熔融痕が認められた。 ○電源コードの断線部が、当該製品の化粧グリルと底フレーム間に挟まれた形跡が認められた。 ○電源プラグに焼損等の異常は認められなかった。 ○他の電気部品(制御基板、モーター、電磁弁及び配線等)に焼損等の異常は認められなかった。 ●当該製品の据付け時等に施工不良があり、電源コードの一部を当該製品の化粧グリルと底フレーム間に挟み込んで設置したため、電源コードが短絡し、出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 <p>なお、施工説明書には、「電源コードを挟まないようにする。」旨、記載されている。</p>	
64	A201500318 平成27年8月9日(埼玉県) 平成27年8月17日	照明器具(センサー付)	(火災) 公衆トイレで当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の本体及びライトカバーの樹脂は著しく焼損し原形を留めていなかった。 ○端子台とセンサー基板間の配線に断線が認められたが、断線部に熔融痕は認められなかった。 ○その他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ●当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	
65	A201500323 平成27年8月4日(熊本県) 平成27年8月18日	換気扇(浴室用)	(火災、死亡1名) 建物が全焼する火災が発生し、1名が死亡した。現場に当該製品があった。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品のモーター巻線部に発熱の痕跡は認められず、電流ヒューズも切れていなかった。 ○当該製品のモーター軸は固着していなかった。 ○内部配線や配線接続部に異常は認められなかった。 ●当該製品の内部部品に出火の痕跡は認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
66	A201500324 平成27年7月19日(東京都) 平成27年8月19日	電気炊飯器	(重傷1名) 当該製品で炊飯中、幼児(1歳)が当該製品を抱えた状態で転倒し、火傷を負った。	<p>○当該製品は、台所の床から高さ48cmのキッチンラック上に置いて米2合を炊飯中、幼児が当該製品を抱えた状態で床に倒れており、外蓋の開いた当該製品からお湯と米がかかり、腹部から両足にかけて火傷を負った。</p> <p>○幼児は事故以前から当該製品に興味を持って触れていることがあった。</p> <p>○当該製品の外蓋は、予熱中までは蓋は開くが、加熱中は外蓋の爪を固定するロック機構が作動して蓋が開かない製品であった。</p> <p>○当該製品で米2合を炊飯したところ、炊飯開始から約16分間の水温は約40℃の予熱状態で、約16分後に外蓋ロック機構が作動するとともに急速加熱となり水温は上昇した。また、ロック機構作動後は外蓋を開けるボタンを押しても外蓋は開かなかった。</p> <p>○当該製品のエラー履歴には、炊飯開始から19分19秒後に内なべが本体から外れたことが記録されていた。</p> <p>○外蓋のロックが掛かった当該製品を1歳相当のダミー人形上に48cmの高さから落下させても、外蓋は開かなかった。</p> <p>○当該製品は、外蓋にロックが掛かっていない状態では、開閉用ボタンを8.5Nで押すと外蓋が開いた。また、木製の台の上に置いた事故発生時と同重量の同等品の押し引きに要する力は、12Nであった。</p> <p>●当該製品は、使用者が幼児の手の届くところに置いて使用していたため、当該製品の外蓋ロック機構が作動する前(急速加熱工程前)に外蓋を開いて、炊飯中の当該製品を幼児が引きずり落下させたため、内なべから外に出た内容物がかったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「子供だけで使わせたり幼児の手の届くところで使わない。圧力炊飯中は絶対に外蓋を開けたり移動させない。やけどをする恐れがある。」旨、記載されている。</p>	
67	A201500330 平成27年7月28日(長野県) 平成27年8月20日	物置	(重傷1名) 施設で当該製品の扉を開けたところ、扉が外れて落下し、足を負傷した。	<p>○当該製品の扉、鴨居及び敷居のレールに変形、破損等の異常は認められなかった。</p> <p>○当該製品は介護施設のごみ集積に使用されており、日によっては、ごみが満載状態であった。</p> <p>○扉を再度取り付けたところ、開閉動作に異常は認められなかった。</p> <p>●当該製品の詳細な使用状況が不明であるが、当該製品の扉の開閉に異常は認められなかったことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
68	A201500331 平成27年7月26日(福岡県) 平成27年8月20日	エアゾール缶(殺虫剤)	(火災) 屋外で当該製品を収納ボックスに入れていたところ、当該製品が破裂し、周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品の底蓋は、内圧の上昇により外面側が凸面形状に膨らみ変形して本体胴から外れていた。</p> <p>○樹脂製のキャップ及び上蓋内面の樹脂パッキンの一部が溶融しており、外部から熱を受けた痕跡が認められた。</p> <p>○各部の板厚に異常はみられず、同等品の耐圧試験結果に異常はなかった。</p> <p>●当該製品の強度等に異常は認められず、外部から熱を受けた痕跡及び内圧が上昇して変形した痕跡が認められることから、外部からの延焼により過熱し、内圧が上昇して破裂したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
69	A201500332 平成27年8月8日(神奈川県) 平成27年8月20日	エアコン(室外機)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は、全体が著しく焼損していた。 ○圧縮機及びファンモーターに異常は認められなかった。 ○制御基板及び制御基板上の破裂した電解コンデンサーに出火の痕跡は認められなかった。 ○その他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ●当該製品の内部部品に出火の痕跡は認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
70	A201500333 平成27年8月11日(栃木県) 平成27年8月20日	電子レンジ	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の外郭は、前面下部に焼損が認められた。 ○調理庫内に焼損は認められなかった。 ○内部の電気部品に焼損は認められなかった。 ●当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
71	A201500342 平成27年8月6日(福岡県) 平成27年8月24日	自転車	(重傷1名) 当該製品で走行中、当該製品の前ホークが破損し、転倒、頭部を負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の前ホークの左右のホーク足が付け根付近で後方に大きく変形しており、変形部には疲労による破損は認められなかった。 ○前輪の横振れは小さく、ハンドルにぎり、ブレーキレバー及び自転車フレームには通常の転倒時に生じる擦れ痕は認められなかった。 ○当該製品の前ホーク変形部の厚さや強度に異常は認められなかった。 ○同等品の前ホークは、JIS規格のエネルギー吸収性試験を満足していた。 ○前ホークを同等品に取り替えて壁に衝突する試験を実施した結果、当該製品には付いていないベアリング硬球の打痕跡が付いたものの、当該製品の前ホークと同じホーク足付け根付近で後方に変形が生じる状態が再現できた。 ○事故現場の路面に、前ホークが変形するような段差は確認できなかった。 ●当該製品に残る痕跡と再現試験での車体の状態が一部異なることや事故発生時の詳細な状況が不明であるため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品を走行中前方から強い衝撃を受けて前ホークが変形し転倒したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
72	A201500350 平成27年7月25日(静岡県) 平成27年8月27日	介護ベッド	(死亡1名) 使用者が昇降機能のある当該製品のベッドフレームの隙間に挟まった状態で発見され、死亡が確認された。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者は当該製品の下に挟まれた状態で発見され、当該製品の下にはリモコンがあった。 ○当該製品の動作に異常は認められなかった。 ●当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の動作に異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 なお、当該製品は、誤動作に関する各種ノイズ試験や、リモコン本体の防水性試験等を満足している。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
73	A201500361 平成27年8月11日(愛知県) 平成27年9月1日	エアコン(室外機)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は、ファンのガードが焼損し、内部のファンも焼損して一部脱落しており、本体内部の基板ケース周辺も焼損していた。 ○基板及び基板に接続している配線に一部焼損が認められたが、熔融痕等の出火の痕跡は認められなかった。 ○端子台、四方弁コイル、二方弁コイル、リアクター、コンプレッサー及びファンモーターは焼損していなかった。 ●当該製品の内部部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	・使用期間:9か月
74	A201500362 平成27年8月21日(愛媛県) 平成27年9月1日	エアコン(室外機)	(火災) 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は全体的に焼損し、熱交換器の銅管は破裂し、アルミフィンのほとんどは焼失していた。 ○本体の後ろで丸めて置かれていた内外連絡線は一部断線し、熔融痕が認められたが、二次痕と判断された。 ○内部の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ●事故発生時の詳細な状況が不明であるため、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の内部部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	・使用期間:約1年
75	A201500365 平成27年8月24日(山梨県) 平成27年9月2日	エアコン(室外機)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生時、当該製品は使用されていなかった。 ○当該製品の焼損は著しく、外郭及びファン等樹脂製部品が焼失していた。 ○ファンモーター、サーミスターの配線に断線が認められたが、断線部に熔融痕等出火の痕跡は認められなかった。 ○インバーター基板、渡り配線、端子盤等、その他の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ●当該製品の内部部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 	・使用期間:不明(製造期間から14年~16年と推定)
76	A201500367 平成27年8月20日(愛知県) 平成27年9月3日	充電器(ニッケル水素電池用)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は2口壁コンセントの上側に接続し、下側にはマルチタップ(3口、栓刃可動形)が接続されていた。 ○当該製品にはニッケル水素電池1本とアルカリ乾電池2本が装填されており、本体には電解液が流れた跡が認められた。 ○当該製品は焼損しておらず、ニッケル水素電池を装填し通電したところ、正常に充電することができた。 ○マルチタップの内部は、栓刃可動部カシメ部付近の配線金具が、片極は溶断し、もう片極は熔融痕が認められた。 ○マルチタップの栓刃可動部の付け根から、アルカリ乾電池に使用されている電解液(水酸化カリウム)の成分であるカリウムが検出された。 ●当該製品に充電不可のアルカリ乾電池を装填して充電したため、アルカリ電解液が漏れて直下のマルチタップ内に浸入し、配線金具間で短絡、スパークし出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 なお、本体表示及び取扱説明書には、「ニッケル水素電池以外は充電しない。」、「アルカリ乾電池・マンガン乾電池など充電式ではない電池は絶対に充電しない。」旨、記載されている。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
77	A201500368 平成27年7月21日(神奈川県) 平成27年9月3日	ライター(使い切り型)	(火災、重傷1) 当該製品を使用後、衣服のポケットに入れたところ、衣服が燃えて火傷を負った。	<p>○当該製品及び同等品(3本)に対し、JIS S 4801:2010(たばこライター安全仕様)に準拠した火炎高さ、消火、繰り返し燃焼試験等を実施したが、当該製品及び同等品に異常は認められなかった。</p> <p>○点火時の摺動部周辺及びガス放出機構に、異物の付着の痕跡及び混入は認められなかった。</p> <p>○当該製品に残火は認められなかった。</p> <p>○着火機構の作動に不具合は認められなかった。</p> <p>○部品の欠損は認められなかった。</p> <p>○事故発生時のポケットの中身は不明である。</p> <p>○事故発生日までの保管状況等、使用状況は不明である。</p> <p>●詳細な使用状況が不明なため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の着火性能に異常が認められないことから、点火時の摺動部又は風防に一時的に異物が挟まったことにより残火が生じ、衣服を焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
78	A201500377 平成27年8月14日(栃木県) 平成27年9月7日	フードミキサー(ブレンダー)	(重傷1名) 店舗で子供が当該製品を操作したところ、指を負傷した。	<p>○不特定多数が自由に使用できる状態で店舗展示中の充電式のコードレスタイプの当該製品を子供が操作したところ、ブレンダーシャフトの刃で左指に怪我を負った。</p> <p>○当該製品は高さ約70cmの棚板上に本体とブレンダーシャフトが組み付けられ、簡単に動作可能な状態で展示されていた。</p> <p>○取扱説明書に沿って動作確認を行ったところ、ロック解除スイッチを押しながら電源スイッチを押すことで、正常に動作した。また、ロック解除スイッチを押さずに電源スイッチを押したが、動作することはなかった。</p> <p>○当該製品の本体表示ラベルには「回転中の刃に指などで触らない。」旨、警告表示されていたが、当該展示コーナーには展示品使用に関する注意喚起の表示はなかった。</p> <p>○通常、展示中は販売店がブレンダーシャフトに付属のブレンダー用カバーを取り付けているが、事故当時に取り付けられていたかどうかは不明であった。</p> <p>○展示に際しては、展示品の仕様取決めや設置ガイドラインはなく、販売店での個別対応としていた。</p> <p>●当該製品は、簡単に動作可能な状態で不特定多数の者が自由に使用できる状態にあったため、子供が一人で当該製品を操作した際、回転しているブレンダーシャフトの刃で左指を負傷したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には「子供など取り扱いに不慣れな方だけで使わせたり、乳幼児の手の届くところで使わない。」旨、警告表示されている。</p>	
79	A201500384 平成27年8月16日(神奈川県) 平成27年9月10日	電気こんろ	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○使用者が外出して帰宅すると、当該製品の上に置いていた樹脂製食器が焼損し、周囲の壁や天井等の一部が焼損していたが、既に鎮火していた。</p> <p>○当該製品のスイッチは、つまみガードを備えた押し回し式のスイッチで、容易にスイッチが入る構造ではなく、つまみガード及び押し回し機構に、破損や動作異常等は認められなかった。</p> <p>○当該製品前の通路に荷物を置いて通路幅が狭くなっており、使用者が外出時に持っていた荷物が、当該製品のスイッチつまみに接触した可能性があった。</p> <p>●当該製品の前を通る際に誤ってスイッチを入れてしまったため、当該製品の上に置いていた可燃物が焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
80	A201500391 平成27年8月30日(北海道) 平成27年9月14日	電気こんろ	(火災) 施設で当該製品を使用 中、周辺を焼損する火 災が発生した。	<p>○当該製品の左ヒーター管周囲、汁受け皿等に、煮こぼれなどの汚れが付着、堆積していた。</p> <p>○左ヒーターのヒーター管の一部が腐食し、内部のヒーター発熱線が断線し溶融していた。</p> <p>○腐食部のヒーター管内部の絶縁材料には、水分が浸入した痕跡が認められた。</p> <p>○制御基板、内部配線、電源コード等の電気部品に異常は認められなかった。</p> <p>●当該製品のヒーターに煮こぼれ等の汚れが繰り返し付着したため、酸化・腐食が進行してヒーター内部に水分が浸入し、絶縁不良が生じてヒーターの一部が異常発熱したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、本体の注意ラベルには、「汁受けや汁受け皿に煮こぼれた場合は必ず清掃する。」旨、記載されている。また、取扱説明書には、「ヒーターの寿命を縮めることから、ヒーターへのふきこぼれの繰り返し、ヒーターの上での魚焼きやしょう油、汁の垂れる調理は絶対にしない。」旨、記載されている。</p>	
81	A201500407 平成27年9月10日(静岡県) 平成27年9月24日	はしご(ロフト用)	(重傷1名) 当該製品を登っていた ところ、当該製品が転倒 し、落下、負傷した。	<p>○使用者が当該製品の最上段付近まで昇った際に、当該製品が転倒した。</p> <p>○当該製品上部の両側手すり先端及び右側手すり裏側に擦り傷が認められた。</p> <p>○当該製品をロフト部分に固定する固定用パイプ右側に擦り傷が認められ、固定用パイプの下にあるドア枠上部に、当該製品(手すり)の幅で擦り傷が認められた。</p> <p>○当該製品のフックは、開口部が狭くなる方向に変形していたが、固定パイプに問題無くはめ込める状態であった。また、他に変形や破損は認められなかった。</p> <p>●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品にフック外れに至る異常は認められないことから、フックが固定用パイプに掛かっている状態で最上段付近まで昇った際に、当該製品の下部が滑って転倒し、落下に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
82	A201500415 平成27年9月6日(北海道) 平成27年9月28日	電気冷蔵庫	(火災) 当該製品の電源プラグ をコンセントに接続した ところ、当該製品を焼損 し、周辺を汚損する火 災が発生した。	<p>○当該製品は、事故発生の約1年前から未使用の状態でもラランダに放置されており、電源コードが室内に引き込まれていたが、電源プラグはコンセントに差し込んでいなかった。</p> <p>○家人が、当該製品の電源プラグを何の製品か分からず壁付けコンセントに差し込んだところ、数分後に冷凍室内から出火した。</p> <p>○冷凍室部分には、外側からドアが開かないように粘着テープが巻かれていた。</p> <p>○当該製品の冷蔵室内は焼損しておらず、冷凍室内に著しい焼損が認められた。</p> <p>○冷凍室内には電気部品及び電気配線は配置されていなかった。</p> <p>○背面下部の機械室内及び電気部品は焼損していなかった。</p> <p>●当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
83	A201500428 平成27年9月18日(千葉県) 平成27年10月7日	自転車	(重傷1名) 当該製品で走行中、転倒し、右脚を負傷した。	<p>○小雨の中、使用者が合羽を着用して当該製品に乗り、平坦な濡れた直線の歩道を走行中に突然右側へ転倒した。転倒前にはブレーキはかけていなかった。</p> <p>○当該製品の前かご、左右ペダル側面等に変形、擦れ痕が認められたが、ハンドル、サドル部等に緩みや著しいがたつき等は認められず、前後輪タイヤにも偏摩耗や著しい摩耗及び減圧等は認められなかった。</p> <p>○JIS D 9203:1993「自転車操縦安定性能試験方法」及びJIS D 9301:2013「一般用自転車」の操縦安定性に定める試験を行った結果、ハンドルのふらつき、片切れ等はなく、異常は認められなかった。</p> <p>○直線アスファルト路面の乾燥及び小雨で濡れた状態で走行試験を行ったところ、変速機能、操舵機能、車輪の回転等は円滑であり、チェーンに異音は認められなかった。</p> <p>●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の操縦安定性等には走行に支障をきたす異常は認められないことから、使用者が濡れた歩道を走行中に何らかの原因でバランスを崩したために事故に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、当該製品は、BAAマーク表示品である。</p>	
84	A201500429 平成27年9月13日(青森県) 平成27年10月8日	照明器具	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品の樹脂製のセードは焼失し、天井に接する金属製の本体裏側部は、焼損により塗装が剥がれていた。</p> <p>○LED基板及び電源基板から出火した痕跡は認められなかった。</p> <p>○内部配線に熔融痕が確認されたが、周囲に燃え広がった痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の内部部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	
85	A201500446 平成27年8月13日(鳥取県) 平成27年10月15日	ろうそく	(重傷1名) 火のついた当該製品を消火するために持ち上げたところ、容器内の溶けたろうが右手の甲に掛かり、負傷した。	<p>○使用者は、数本ずつまとめたおがら(皮をはいだ麻の茎)に点火するため、当該製品を約5分間燃焼させた。</p> <p>○同等品(未使用品)との重さの違いから、当該製品から溶け出したろうは約3gと推定された。</p> <p>○同等品を使用し、おがらへの点火動作を約5分間行ったところ、溶けたろうの重さは3.6g(通常燃焼のみでは約0.25g)であり、通常燃焼使用に比べて多量のろうが溶けた。</p> <p>○当該製品の本体底面に「ろうが固まるまで動かさない」旨、表示されていた。</p> <p>●当該製品でおがらへの点火動作を長時間行ったため、ろうが多量に溶け、消火のために傾けた際、多量に溶けたろうが親指にかかり、火傷を負ったものと推定される。</p>	
86	A201500463 平成27年9月29日(福岡県) 平成27年10月27日	ポータブルDVDプレーヤー	(火災) 車両内で当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品が置かれていた車両の運転席側のダッシュボードは、事故品の左側が広い範囲で焼損しており、穴が空いていた。</p> <p>○当該製品は、本体後部の電池パック付近の焼損が著しいが、リチウム充電電池及び電池制御基板等に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>○当該製品本体内部の焼損は比較的少なく、本体内部及びACアダプターの接続部に出火の痕跡は認められなかった。</p> <p>●当該製品の内部部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
87	A201500475 平成27年10月15日(大分県) 平成27年11月4日	フェンス(住宅用)	(重傷1名) 小学生が当該製品を乗り越えようとしたところ、当該製品の格子が外れ、側溝に転落し、負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生時、使用者は住宅の横にあった用水路から当該製品の縦格子を掴み、よじ登ろうとしていた。 ○当該製品の縦格子の寸法、肉厚及び取り付け状態に異常は認められなかった。 ○再現試験の結果から、外れた縦格子には、斜め下方向に600N以上の荷重が加わっていた。 ○当該製品には、「フェンスを揺すったり、乗ったり、寄りかかったりしない」旨、記載されており、また、当該製品はJIS規格を満足する製品であった。 ●当該製品に異常は認められないことから、使用者が当該製品の側から縦格子を掴みよじ登ろうとした際に、縦格子に過大な力が加わったことで縦格子が変形し外れたものと考えられ、製品に起因しない事故であると推定される。 	
88	A201500480 平成27年10月26日(北海道) 平成27年11月6日	布団乾燥機	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の温風吹出部のホース上面が焼損、変色していたが、ホース下面に焼損はほとんど認められなかった。 ○当該製品の通電試験では、電気部品は正常に動作し、本体及びホースに焼損等の異常は生じず、布団等にも焼損等の異常は認められなかった。 ○本体ケース内側及び内部の電気部品は焼損しておらず異常は認められなかった。 ●当該製品の電気部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
89	A201500481 平成27年10月23日(静岡県) 平成27年11月6日	電子レンジ	(火災) 当該製品を使用中、当該製品の庫内を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者は、樹脂製容器に入れた1合未満の冷凍ご飯を、600Wの手動加熱モードで2分20秒のタイマー設定をした後、その場を離れていた。 ○当該製品の電気部品に異常は認められず、通電すると正常に動作した。 ○当該製品を用いて50～150gの冷凍ご飯を、事故時と同じ設定で加熱したが、ご飯が焦げることはなかった。 ●当該製品の詳細な使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に異常はなく正常に動作することから、製品に起因しない事故と推定される。 	
90	A201500483 平成27年10月18日(栃木県) 平成27年11月6日	エアコン(室外機)	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○事故発生時、当該製品は使用中ではなかった。 ○基板、圧縮機、ファンモーター等の電気部品に出火の痕跡は認められなかった。 ●当該製品の内部部品に出火の痕跡が認められないことから、外部からの延焼により焼損したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	・使用期間:不明(製造期間から2年5か月～3年7か月と推定)

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
91	A201500490 平成27年10月28日(宮崎県) 平成27年11月10日	電気洗濯乾燥機	(火災) 異音が生じたため確認すると、当該製品の電源コード及び周辺を焼損する火災が発生していた。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品の基板及び洗濯モーター等、製品内部に出火した痕跡は認められなかった。 ○当該製品の電源プラグにトラッキング現象などの異常は認められなかった。 ○当該製品の電源コードの途中が断線しており、焼損していたが、当該断線部は運転中に荷重が加わる箇所ではなく、また、電気用品安全法の技術基準を満足していた。 ●当該製品の設置状況が不明であるため、事故原因の特定には至らなかったが、製品の内部部品に出火の痕跡が認められず、製品に起因しない事故と推定される。 	
92	A201500502 平成27年6月30日(島根県) 平成27年11月13日	電気ストーブ	(火災) 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ○当該製品は電気洗濯機の直近に設置されており、電源プラグはコンセントに常時差し込まれた状態であった。 ○使用者は、出火直前に電気洗濯機へ衣類を投入した。 ○当該製品の電源スイッチの位置は「入」の状態だった。 ○当該製品の上面に、焼損した衣類が残っていた。 ●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の上面に接触していた衣類がヒーターの熱により過熱されたため、出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	
93	A201500504 平成27年10月26日(東京都) 平成27年11月16日	介護ベッド用手すり	(重傷1名) 使用者(70歳代)が昇降機能のある介護ベッドのリモコンを操作したところ、当該製品と介護ベッドの背部との間に手が挟まり、負傷した。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用者は睡眠剤服用後に夜間暗い部屋で当該製品の隙間から手を出し、手探りでリモコンを探し、通常の位置と異なる頭側の端部にあったリモコンを「通常速」で操作し、当該製品とベッドの背部との間に手が挟まり負傷した。 ○当該製品に変形は認められなかった。 ○リモコンの動作に異常は認められなかった。 ○同等品による再現試験の結果、リモコンを事故発生時と同じ頭側の端の位置にして動作させた場合、無理な体勢になって手を引っ込めにくくなり、ベッドと手すりの一部との間で挟む状態になることを確認した。 ○当該製品は、使用していたベッドとの組み合わせでJIS認証を取得している。 ●使用者が当該製品の隙間に手を入れた状態で、通常の位置と異なる頭側の端に引っ掛けられていたりリモコンでベッドの背上げ操作を行ったため、ベッドの背部と当該製品のフレームとの間に手が挟まれ、事故に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。 	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
94	A201500506 平成27年8月9日(大分県) 平成27年11月16日	脚立(はしご兼用、アルミニウム合金製)	(重傷1名) 当該製品を脚立として使用中、落下し、負傷した。	<p>○当該製品は、昇降面の左右の支柱が最下段踏ざん付近で、内側に変形していた。</p> <p>○支柱の寸法・肉厚及び硬さに、異常は認められなかった。</p> <p>○事故発生時、使用者は木から下りようとして木の枝にぶら下がった状態から脚立の天板に降りたが、ぶら下がった状態の足先は数cm天板に届いていなかった。</p> <p>●当該製品の強度及び安定性に異常はなく、当該製品の支柱端部が使用における荷重方向とは異なる内側方向に変形していたことから、使用者が木の枝にぶら下がった状態から脚立の天板に降りた際にバランスを崩して脚立が横方向に転倒したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には「天板の上には立たない」旨、本体表示には「天板の上には立たない」、「左右方向に転倒しやすいので注意して使用する」旨、記載されている。また、当該製品は、SG基準の強度及び安定性に適合している。</p>	
95	A201500515 平成27年10月31日(愛知県) 平成27年11月20日	照明器具	(火災) 工場で当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	<p>○当該製品は、光源に150W型の耐震ハロゲン球を使用し、クリップで固定できる屋内用照明器具であったが、製紙工場でロール紙の糊付け部を温める熱源として、ベルトコンベヤの横に近接させて設置し使用していた。</p> <p>○当該製品は、ランプ前面のガラス部分を覆う安全ガードが外されており、ガラス面にはススが付着していた。</p> <p>○電源コード、照明スイッチ、ハロゲン球等に出火の痕跡は認められず、通電したところ正常に点灯した。</p> <p>●当該製品のランプ前面のガラス部分を覆う安全ガードを外し、ロール紙を温める熱源として、ベルトコンベヤの横に近接して設置していたため、めくれたロール紙がガラス部分に接触し、出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書には、「可燃物の近くで使用しない。」旨、記載されている。</p>	
96	A201500537 平成27年10月31日(岐阜県) 平成27年12月1日	踏み台(アルミニウム合金製)	(重傷1名) 当該製品から降りようとしたところ、転落し、胸部を負傷した。	<p>○当該製品は、4本の支柱のうち1本が、最下段踏ざんの取付部直下で破断していた。</p> <p>○支柱破断部は、通常使用で負荷が加わる外側方向ではなく、横から内側方向に力が加わって破断したことを示す伸びの跡が認められた。</p> <p>○破面は全体に凹凸があり、大きな力で破損した様相であった。</p> <p>○破断した支柱の断面外形寸法、肉厚及びバーコル硬さは、同等品と差異は認められなかった。</p> <p>●当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、破断した支柱の強度に異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、当該製品は、SG CP5A 0015:2013「住宅用金属製脚立のSG基準」の強度試験を満足していた。</p>	

No.	管理番号 事故発生日/報告受理日	製品名	事故内容	判断理由	備考
97	A201500581 平成27年11月10日(北海道) 平成27年12月15日	脚立(はしご兼用、アルミニウム合金製)	(重傷1名) 工事現場で当該製品を脚立として使用中、転倒し、負傷した。	<p>○使用者は、工事現場のフローリング上に設置した当該製品を脚立状態にして、天板から数えて1段目の踏ざんに天板を跨いで立ち、両手で作業をしていた。</p> <p>○当該製品は、昇降面片側の支柱端部が内側に変形していた。</p> <p>○当該製品の支柱の寸法、肉厚、硬度等に異常は認められなかった。</p> <p>●当該製品の支柱の強度等に異常は認められないことから、使用者が当該製品の天板を跨いで作業中にバランスを崩し、倒れた当該製品に落下して支柱が変形したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。</p> <p>なお、取扱説明書及び本体表示には、「天板の上に跨がることを禁止する。」旨、記載されている。また、当該製品は、SG基準の強度及び安定性を満たしていた。</p>	
98	A201500607 平成27年12月12日(山口県) 平成27年12月25日	電動車いす(ハンドル形)	(死亡1名) 使用者(90歳代)が当該製品に乗車中、転倒し、数日後、死亡した。	<p>○使用者が当該製品に乗車中に転倒した場所、状況等の詳細は不明であった。</p> <p>○当該製品の左バックミラー、右後輪リム、左右のアームレスト側面等に、転倒時についてと考えられる傷や破損が認められた。</p> <p>○コントローラーの履歴は、モーター、操作入力系共に正常に動作しており、事故当日及び事故前後に当該製品の異常を示す記録はなかった。</p> <p>○運転、ブレーキ性能等に異常はなく、分解調査でも異常は認められなかった。</p> <p>○点検は毎月1回実施されており、これまでの点検整備記録書に事故の原因となる修理記録はなかった。</p> <p>●事故時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、転倒時の傷や破損を除き当該製品に異常は認められず、コントローラーの履歴等にも異常を示す記録はなかったことから、製品に起因しない事故と推定される。</p>	